

写真73 269号（南から）

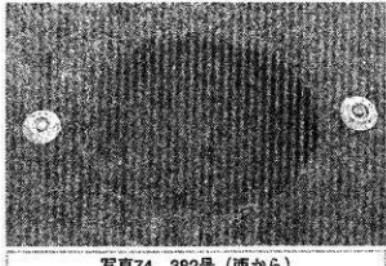


写真74 382号（西から）

#### 4-4-25 270~272・274・287~289・292~294・299号

調査区中央部北側のM3グリッド付近に位置するピット群である。覆土の主な色調が暗褐色を呈すことと近隣に位置することから、同段階の造構群と判断している。284・299号が後期初頭段階の造構に掘り込まれていることと、覆土の色調から判断して、縄文中期末葉～後期初頭段階の造構群と判断しているが、造構間の相關関係やそれぞれの造構の機能・性格は不明である。

なお、274号は覆土の色調が他の造構と異なり、黒褐色を呈することから、後期初頭段階の造構の可能性も考えられたが、現場段階の所見を優先して中期末葉～後期初頭段階の造構として扱った。

(佐野)

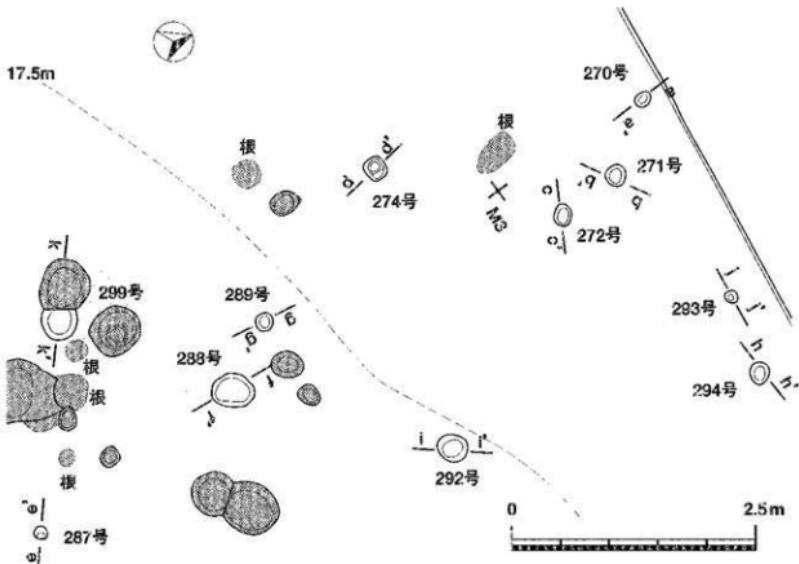
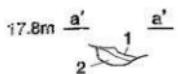
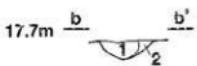


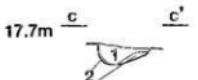
図96 270~272・274・287~289・292~294・299号



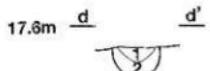
270号  
1 墓褐色 [10YR3/3] 炭化物粒・  
2層土ブロック微量  
2 褐色 [7.5YR4/4]



271号  
1 墓褐色 [10YR3/4] 炭化物粒微量  
2 黄色 [7.5YR4/4]



272号  
1 墓褐色 [10YR3/3] 2層上ブロック少量、  
炭化物粒微量  
2 褐色 [7.5YR4/4]



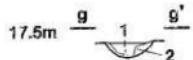
274号  
1 墓褐色 [10YR2/3] 炭化物粒・  
炭化物粒微量  
2 褐色 [7.5YR4/4]



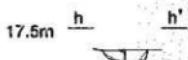
277号  
1 墓褐色 [10YR3/3] 炭化物粒・2層上  
ブロック微量  
2 褐色 [7.5YR4/4]



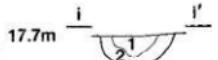
288号  
1 墓褐色 [10YR3/4] 炭化物粒・2層土ブ  
ロック微量  
2 褐色 [7.5YR4/4]



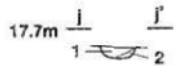
289号  
1 墓褐色 [10YR3/4] 炭化物粒・2層土  
ブロック微量  
2 褐色 [7.5YR4/4]



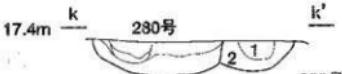
291号  
1 墓褐色 [10YR3/3] 2層土ブロック中量、  
炭化物粒微量  
2 褐色 [7.5YR4/4]



292号  
1 墓褐色 [10YR3/3] 炭化物粒・2層上  
ブロック微量  
2 褐色 [7.5YR4/4]



294号  
1 墓褐色 [10YR3/3] 2層土ブロック微量  
2 褐色 [7.5YR4/4]



280号  
1 墓褐色 [10YR3/3] 炭化物粒微量  
2 褐色 [7.5YR4/4]

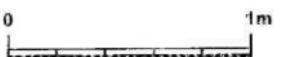


図97 270~272・274・287~289・292~294・299号 土層断面図

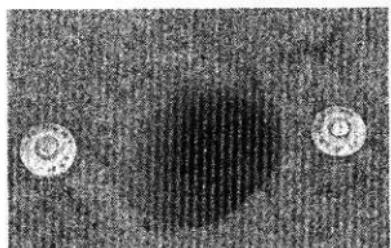


写真75 287号 (南西から)

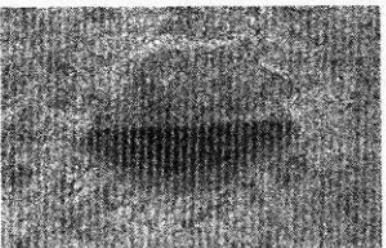


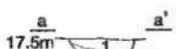
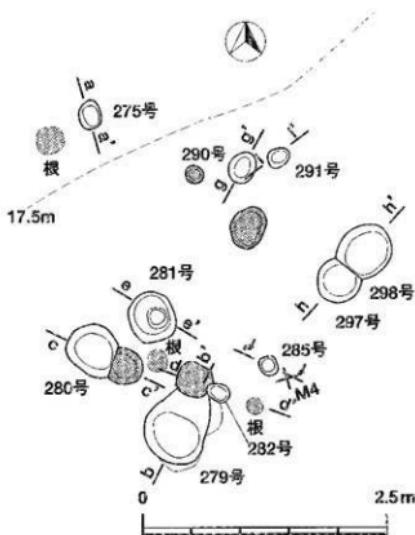
写真76 299号 (西から)

4-4-26 275・279~282・285・  
290・291・297・298号

調査区中央部のM3グリッド付近に位置するピット群である。覆土の主な色調が黒褐色を呈すことと近隣に位置することから、同段階の遺構群として一括して取り扱った。いずれの遺構からも遺物は出土していないが、280号が中期木葉～後期初頭段階の遺構を掘り込んでいることから、縄文後期初頭段階の遺構群と判断された。遺構間の相関関係やそれぞれの遺構の機能・性格については明らかにできなかった。

なお、ここに掲げた遺構のうち、275・285・290・297号は覆土の主な色調が暗褐色を呈することから縄文中期木葉～後期初頭段階の遺構とも考えられたが根の影響もあり、現場段階の所見を優先して後期初頭段階の遺構として扱った。

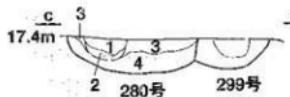
(佐野)



275号  
1 黒褐色 [10YR3/3]  
2 塗土ブロック少量、炭化物  
粒微量  
2 暗褐色 [7.5YR4/4]



279号  
1 黒褐色 [10YR3/3]  
2 塗土ブロック微量  
3 暗褐色 [7.5YR4/4]  
4 塗土ブロック微量  
5 暗褐色 [7.5YR4/4]



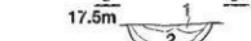
280号  
1 黒褐色 [10YR2/3] 炭化物粒微量、4層上ブロック微量  
2 塗土色 [10YR3/3] 4層上ブロック少  
3 暗褐色 [10YR3/4] 炭化物粒微量、4層上ブロック微量  
4 暗褐色 [7.5YR4/4] 炭化物粒微量



281号  
1 黒褐色 [10YR2/3] 4層上ブロック量、炭化物粒微量  
2 硫褐色 [10YR3/3] 4層上ブロック中量  
3 暗褐色 [10YR3/4] 4層上ブロック少  
4 暗褐色 [7.5YR4/4]



285号  
1 暗褐色 [10YR3/3] 2層上ブロック少  
2 暗褐色 [7.5YR4/4]



290号  
1 暗褐色 [10YR3/4] 炭化物粒微量  
2 塗土色 [10YR3/3] 3層上ブロック少  
3 暗褐色 [7.5YR4/4] 船形

1m

図98 275・279~282・285・290・291・297・298号

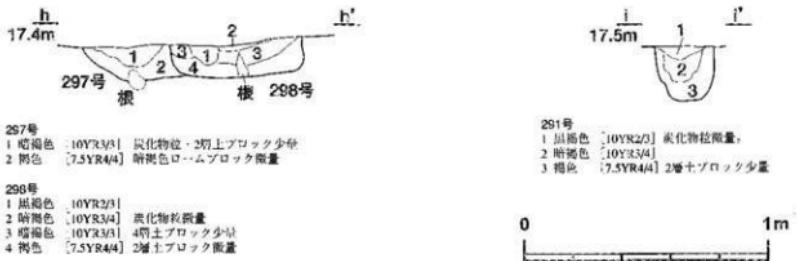


図99 291・297・298号 土層断面図

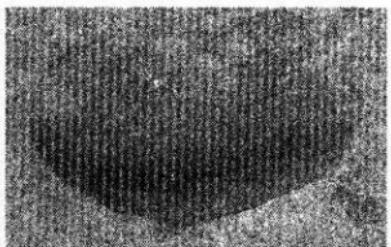


写真77 290号（南から）

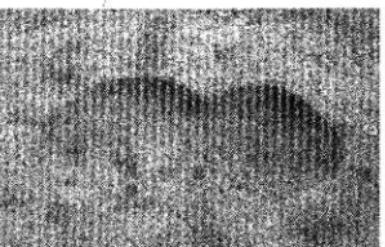


写真78 297・298号 完掘状況（北西から）

4-4-27 306~309・335・

### 373・386号

調査区中央部付近のM4グリッド付近に位置する遺構群である。覆土の色調が主に暗褐色であり、近隣に位置することからほぼ同じ段階の遺構群と判断してここに掲げた。

遺物は、373号より中期末葉～後期初頭の土器細片が少量出土したのみであるが、覆土の色調から判断して、これらの遺構群を縄文中期末葉～後期初頭段階のものと推定している。なお、遺構間の相關関係やそれぞれの遺構の機能・性格は、不明である。

(佐野)

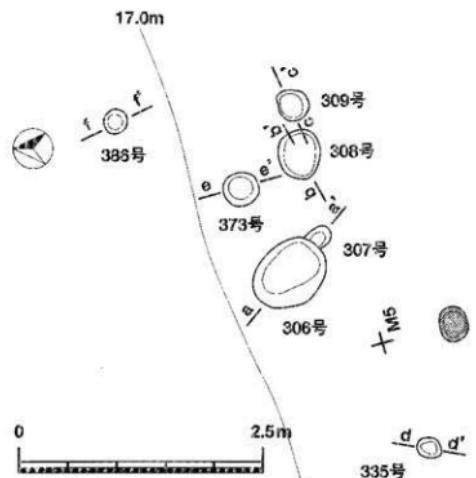


図100 306~309・335・373・386号

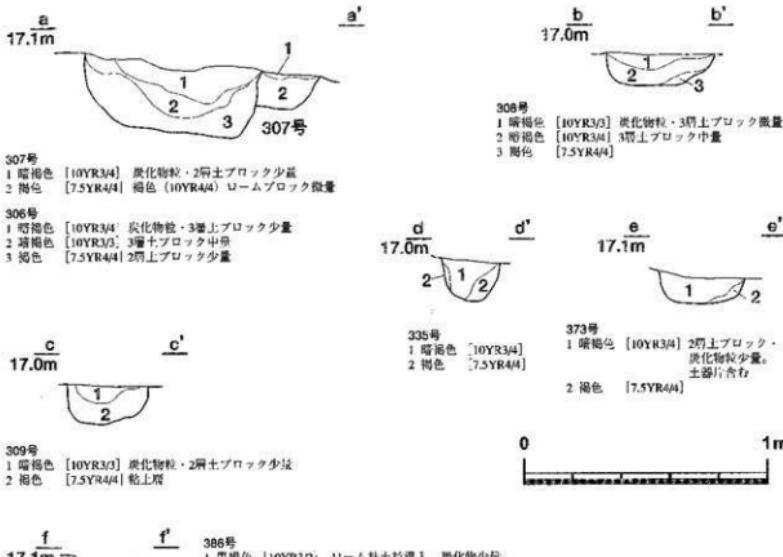


図101 306～309・335・373・386号 土壌断面図

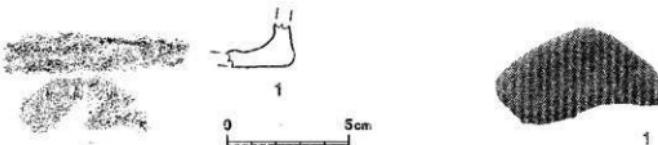


図102 373号 出土遺物

写真79 373号 出土遺物

表29 373号 出土遺物観察表

No.	種別	器形	部位	層位	年代	型式	備考
1	縄文土器	深鉢形土器	底	1層	中期末葉～後期初頭	—	

#### 4-4-28 314～316・384号

調査区東部のN5グリッド付近に位置する遺構群である。覆土の色調が暗褐色を呈することから、近隣に位置するほぼ同一段階の遺構として取り扱っている。遺物は394号より中期末葉～後期初頭の土器細片がごく少量出土している。覆土の色調や出土遺物から、年代的には縄文土器末葉～後期初頭の遺構群と推定されたが、根の侵入が激しい。遺構の機能・性格等は不明である。(佐野)

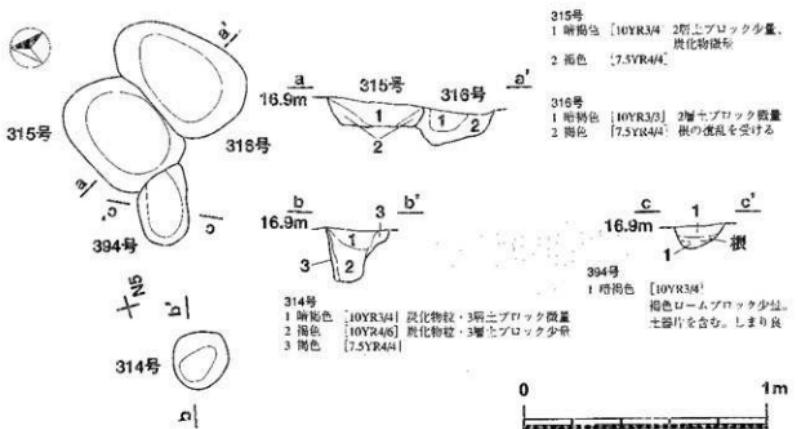


図103 314～316・394号

#### 4-4-29 319・461号

調査区東部のON4グリッド付近に位置する2基の遺構である。覆土の色調が暗褐色を呈することから、近隣に位置するほか同一段階の遺構として取り扱っている。ともに出土遺物はなく、覆土の色調から縄文中期末葉～後期初頭の遺構と推測している。根による侵食が著しく根跡とも考えたが確証がなく、遺構として取り扱った。両者とも機能・性格は不明である。

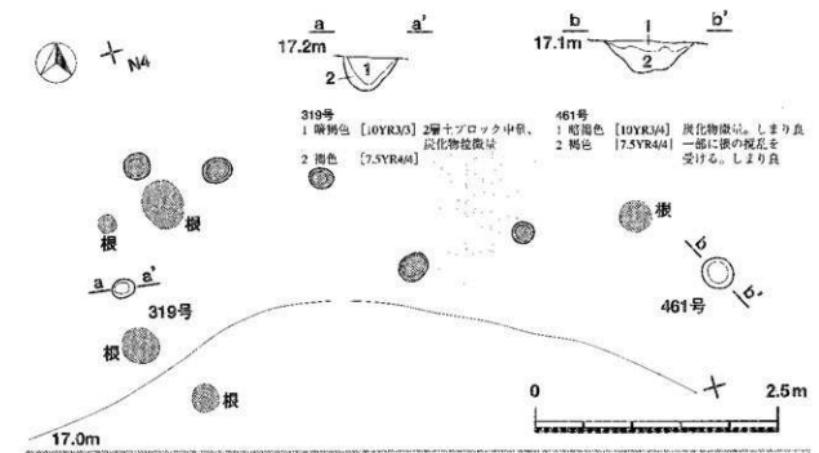


図104 319・461号

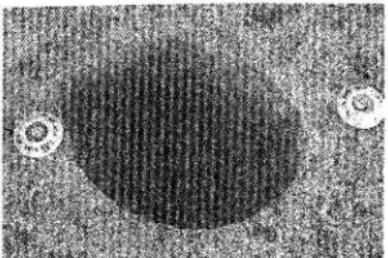


写真30 319号（南から）

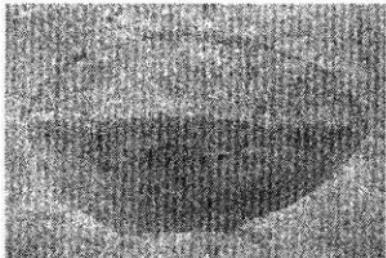


写真31 461号（西から）

4-4-30 322・323・327・328・330・332・388・390・392・395～398

・400～404・446・447・455・457号

調査区東部のN 3～N 4 グリッド付近に位置する遺構群である。覆土の主な色調が黒褐色を呈することから、近隣に位置するほぼ同一段階の遺構として取り扱っている。330・332・397・404・446・447号は覆土の色調が暗褐色を呈しているが、この付近は根による擾乱が著しく、これらの遺構覆土も根による影響を受けていることから、色調的にも変化があったのではないかと推定された。

なお、これらの遺構群は弧状に並ぶような状況が観えたことから、当初は後世の植林等によって上部構造を失った竪穴住居跡に伴う柱穴跡等ではないかと考えていたが、これを支持するような材料は、現地調査では発見されなかった。

また前述したように根の影響が著しいことから、これらについて遺構ではなく根跡ではないかとの疑いも持った。確かに根の影響は大きいが、これらの多くが遺構とするのにふさわしい掘方や覆土の堆積状況を示していたため、遺構として取り扱っている。しかしこれらの遺構の機能・性格、遺構間の相關関係については明らかにできなかった。

出土遺物はないが、主な覆土の色調から純文後期初頭の遺構群と推測している。

(佐野)

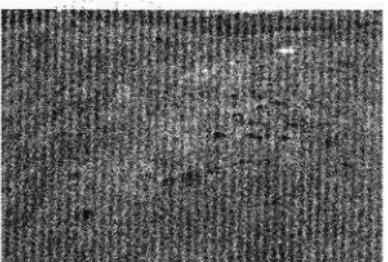


写真32 322号ほかピット群（北から）

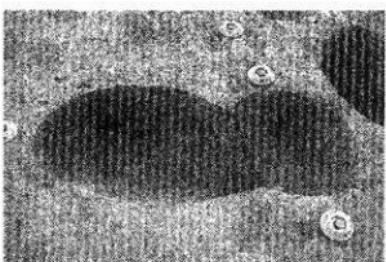


写真33 402・403号（北から）

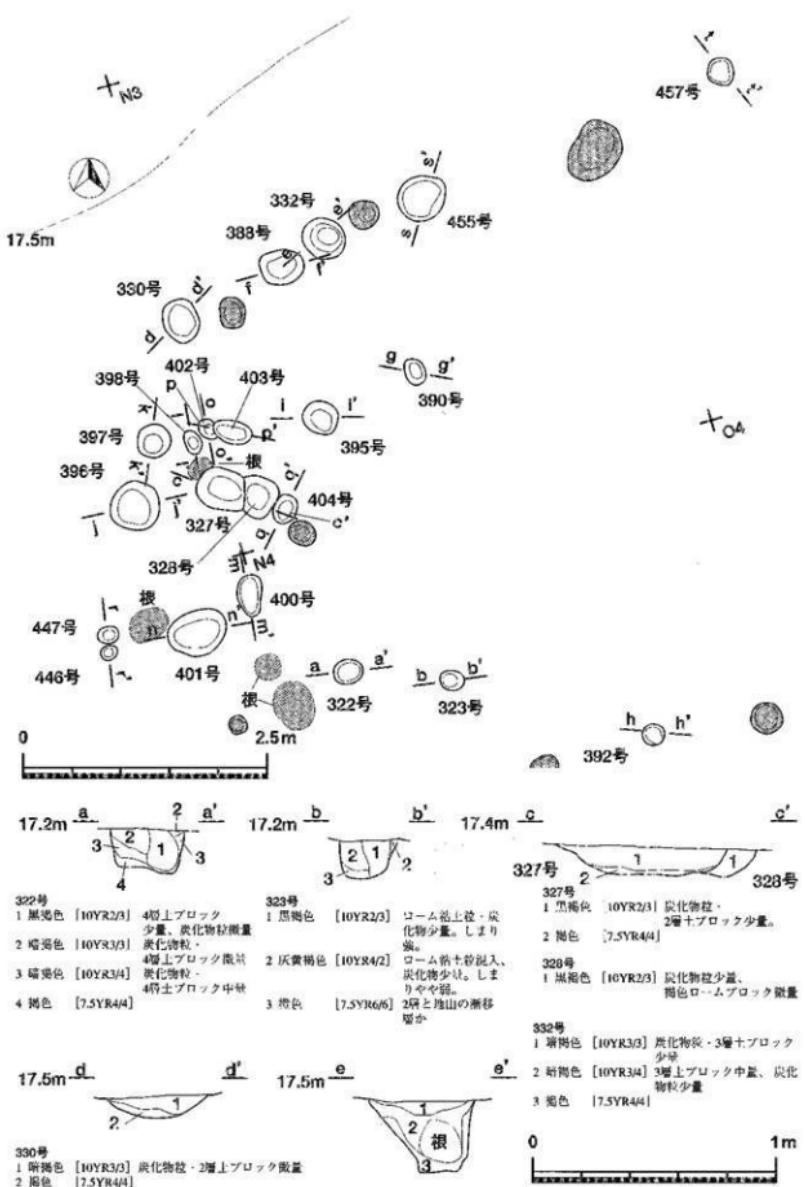
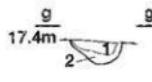


図105 322・323・327・328・330・332・338・380・390・392・

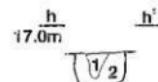
395~398・400~404・446・447・455・457号



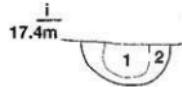
388号  
1 黒褐色 [10YR3/2]  
ローム粘土ブロック混入、  
炭化物少量。しまり良。  
2 に赤い黄褐色 [10YR5/4]  
ローム質土、炭化物少址。  
しまり良



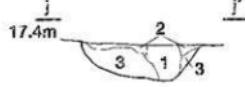
390号  
1 黒褐色 [10YR3/2]  
ローム粘土質混入。炭化物少量。  
しまり良。  
2 に赤い黄褐色 [10YR5/4]  
1層上混入。しまり良



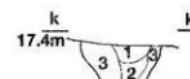
392号  
1 黒褐色 [10YR3/2]  
ローム粘土質混入、  
炭化物少量。  
2 褐色 [7.5YR6/6]  
一部に根糞が混入



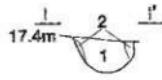
395号  
1 黒褐色 [10YR2/3]  
炭化物・2層土ブロック  
多量。しまり良。  
2 棕褐色 [7.5YR4/4]  
1層土微量。しまり良



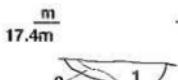
396号  
1 黒褐色 [10YR2/3]  
炭化物少址、3層土ブ  
ロック多量。  
2 棕褐色 [7.5YR3/4]  
3 棕褐色 [7.5YR4/4]



397号  
1 棕褐色 [10YR3/3]  
3層土ブロック少址、  
炭化物微量。しまり良。  
2 棕褐色 [10YR4/4]  
3層土ブロック少址。  
しまり良。  
3 棕色 [7.5YR4/4]  
1層土ブロック微量。



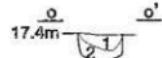
398号  
1 黒褐色 [10YR2/3]  
2層土ブロック少址、  
炭化物微量。しまり良。  
2 棕褐色 [7.5YR4/4]  
しまり良



400号  
1 黒褐色 [10YR2/3]  
炭化物・2層土ブ  
ロック少址。しま  
り良。  
2 棕褐色 [7.5YR4/4]  
しまり良



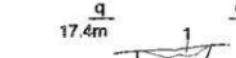
401号  
1 黒褐色 [10YR2/3]  
炭化物・3層土微址。  
2 棕褐色 [10YR3/3]  
3層土少址、炭化物微量  
3 棕褐色 [7.5YR4/4]  
炭化物微量



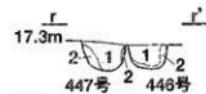
402号  
1 黒褐色 [10YR2/3]  
炭化物少址。しまり良。  
2 棕褐色 [7.5YR4/4]  
1層土ブロック少址。  
しまり良



403号  
1 棕褐色 [10YR2/3]  
2層土ブロック中量、  
炭化物少址。  
2 棕褐色 [7.5YR4/4]  
1層土ブロック微量。  
一部に根の搅乱を受ける。  
しまり良



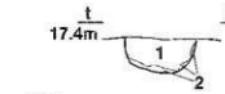
404号  
1 棕褐色 [10YR3/3]  
炭化物・2層土ブロック少址。  
しまり良。  
2 棕褐色 [7.5YR4/4]  
一部に根の搅乱を受ける。  
しまり良



446号  
1 墓褐色 [10YR3/3]  
2層土ブロック中量、炭  
化物微量。しまり良。  
2 棕褐色 [7.5YR4/4]  
しまり良



455号  
1 黑褐色 [10YR2/3]  
2層土ブロック中量、  
炭化物微量。しまり良。  
2 棕褐色 [7.5YR4/4]  
しまり良



457号  
1 黑褐色 [10YR2/3]  
2層土ブロック中量、炭化物微量。  
しまり良。  
2 棕褐色 [7.5YR4/4]  
しまり良

447号  
1 墓褐色 [10YR3/3]  
2層土ブロック多量、炭  
化物微量。しまり良。  
2 棕褐色 [7.5YR4/4]  
しまり良

0 1m

図106 388・390・392・395~398・400~404・446・447・455・457号 土層断面図

4-4-31 331・389・456・458・463～466号

調査区東部北側のN3～O3グリッドに位置する遺構群である。覆土の主な色調が暗褐色を呈することから、近隣に位置する縄文中期末業～後期初頭段階の遺構群と考えている。ただし遺構間の相関関係や、それぞれの遺構の機能・性格は明らかにできなかった。なお、これらの遺構から出土遺物は得ていない。

(佐野)

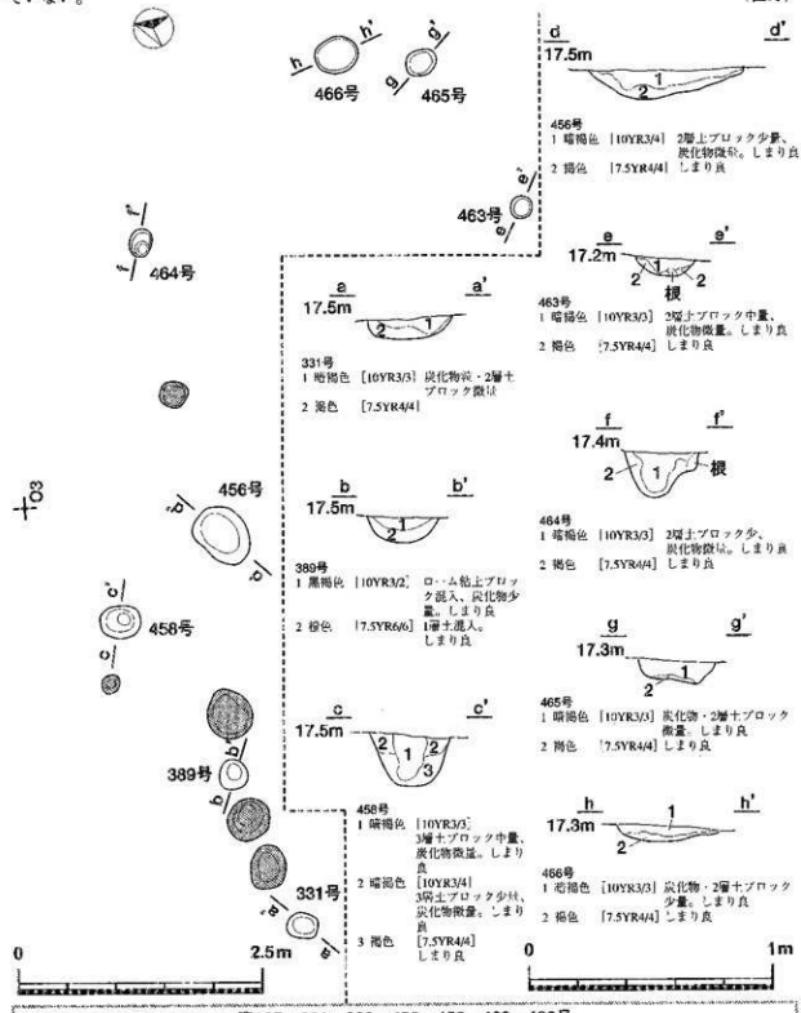


図107 331・389・456・458・463～466号

4-4-32 405・407・408・410・414・418・420・422・425～429・432～441号

調査区中央東南寄りL6～N6グリッド付近に位置する遺構群である。覆土の主な色調が暗褐色を呈することから、近隣に位置する縄文中期末葉～後期初頭段階の遺構群と推測しているが、遺構間の相関関係や、それぞれの遺構の機能・性格については不明である。

なお遺物については、408号より頁岩の極小剥片が1点出土したのみで、年代決定に繋がる遺物の出土はなかった。  
(佐野)

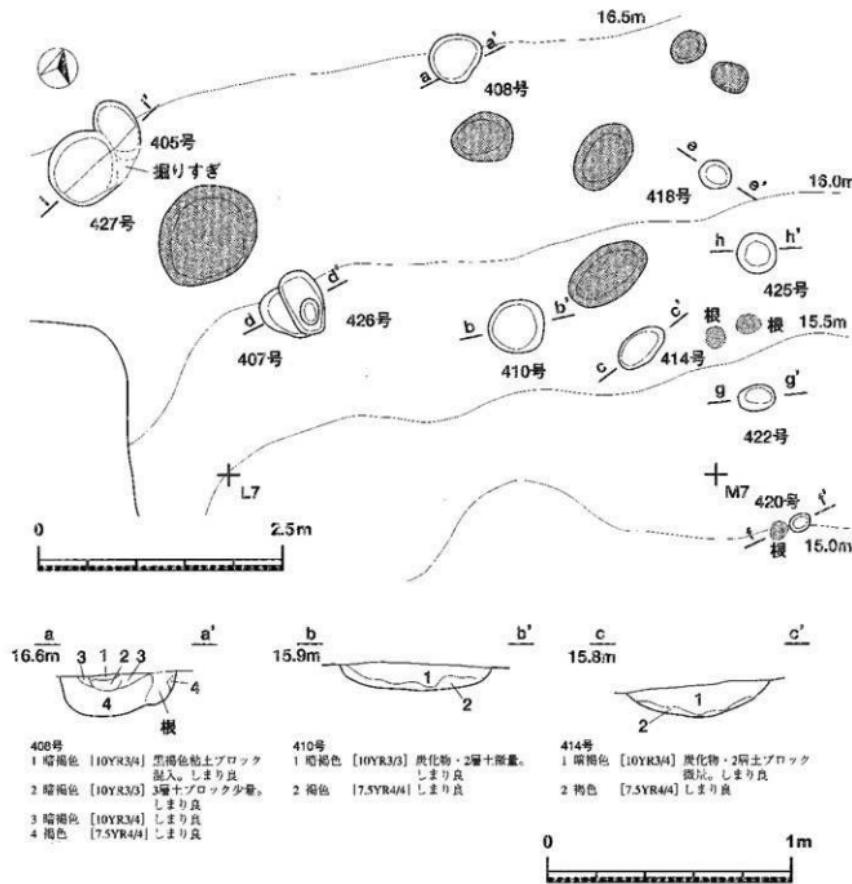


図108 405・407・408・410・414・418・420・422・425～429号

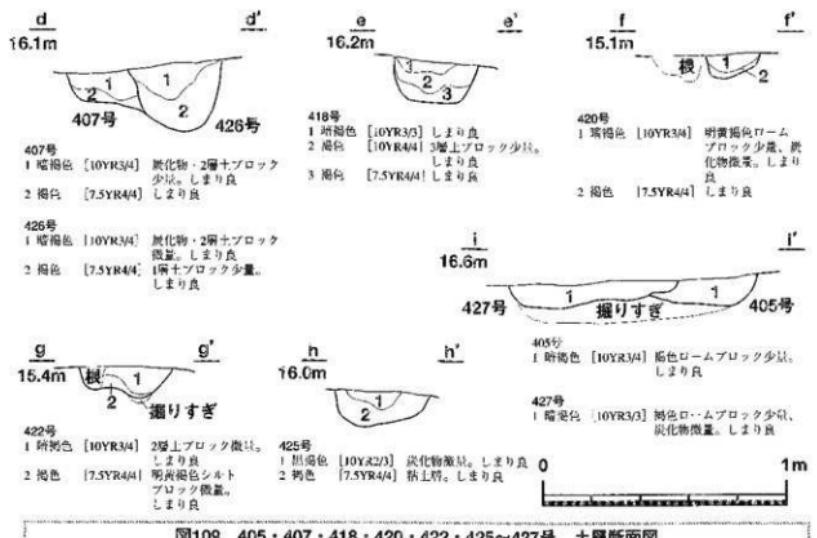


図109 405・407・418・420・422・425~427号 土層断面図

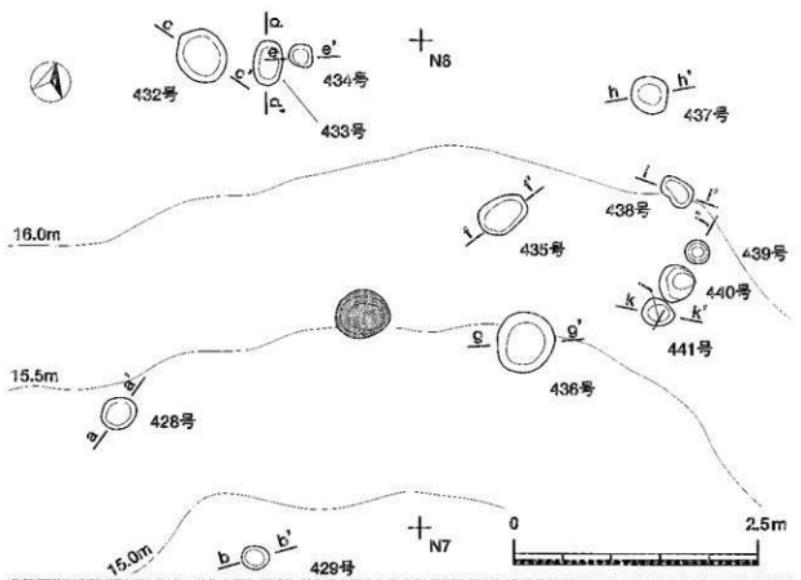


図110 428・429・432~441号

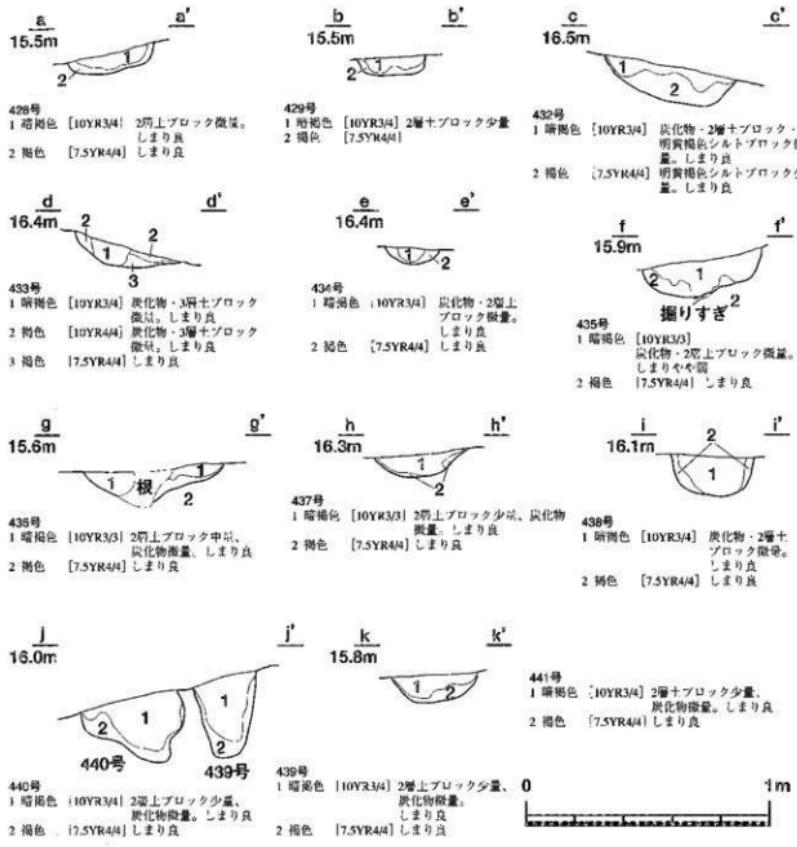


図111 428・429・432~441号 土層断面図

#### 4-4-33 413・421・430・431・444号

調査区中央東南端のM6～M7グリッド付近の、地山標高16.5～15m程度を測る南に向かう傾斜面上に位置する遺構群である。

いずれの遺構からも年代決定に繋がるような遺物の出土はないが、覆土の主な色調が黒褐色を呈することから、縄文後期初頭段階の遺構群と推定している。

しかし遺構間の相關関係や、それぞれの遺構の機能・性格についても明らかにできなかった。(佐野)

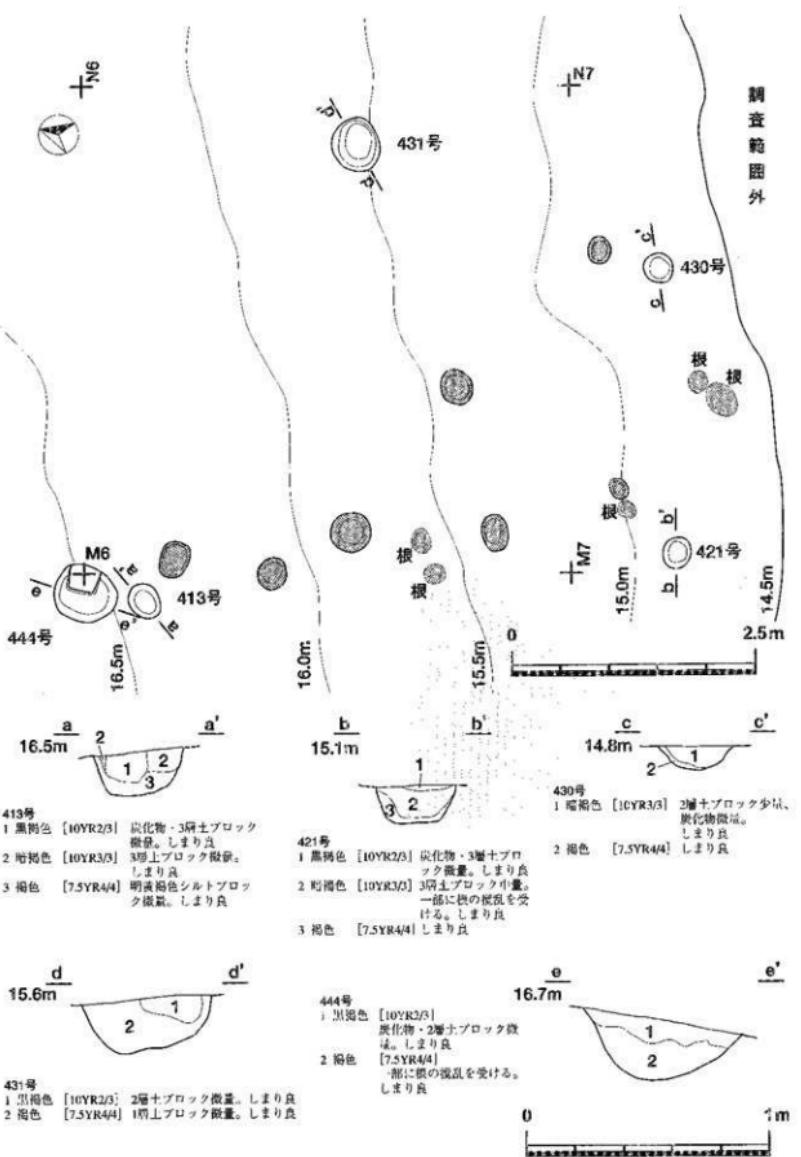


図112 413・421・430・431・444号

#### 4-4-34 448~452・454・470・492号

調査区東部南寄りのO5～O6グリッド付近に位置する遺構群である。年代判定の根拠となりうる遺物の出土はないが、主な覆土の色調が暗褐色を呈することから、近隣に位置する縄文中期末葉～後期初頭段階の遺構群と推定している。

ただし、遺構間の相関関係や、それぞれの遺構の機能・性格については明らかにできなかった。

(佐野)

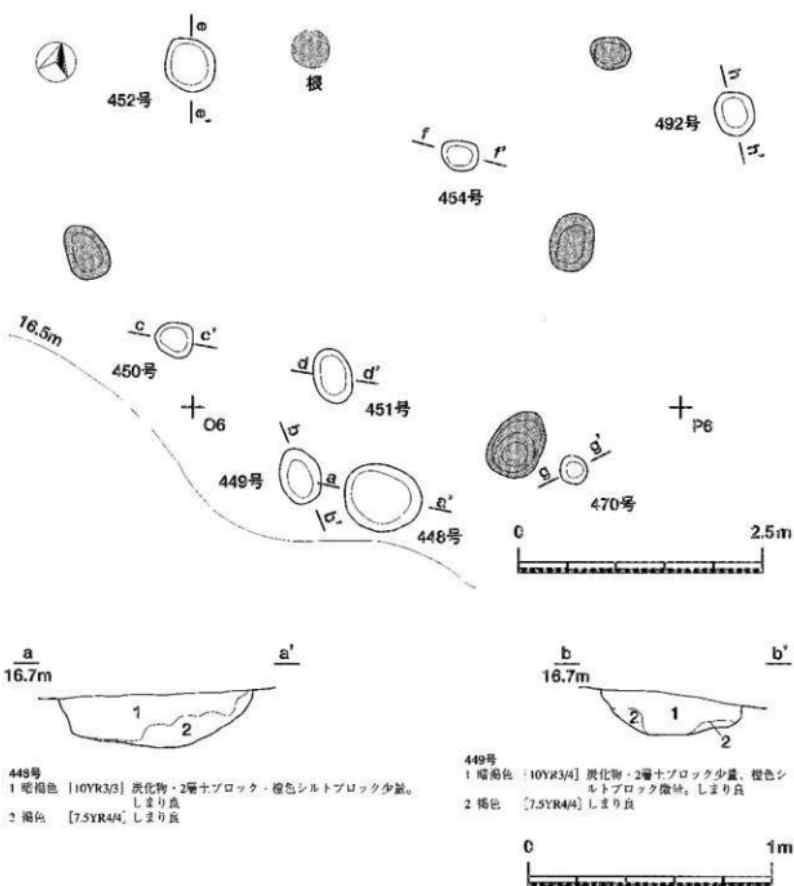


図113 448~452・454・470・492号

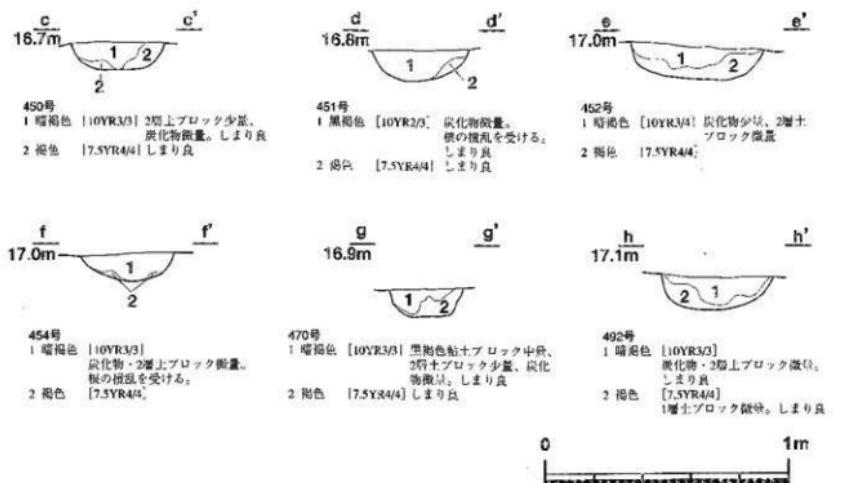


図114 450~452・454・470・492号 土層断面図

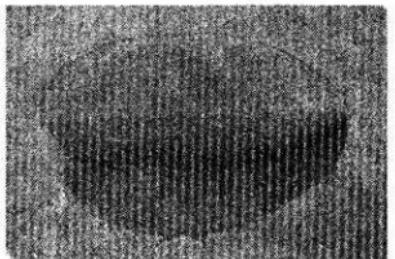


写真84 448号（南から）

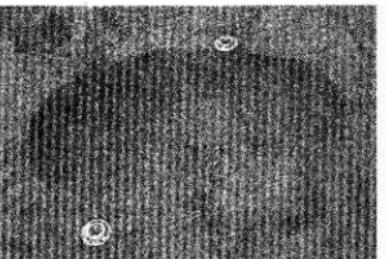


写真85 451号（東から）

#### 4-4-35 467~469・474・490・491号

調査区東部南寄りのO5~P5グリッド付近に位置する遺構群である。年代判定の根拠となりうる遺物の出土はないが、覆土の色調が黒褐色を呈することから、これらを近隣に位置する縄文後期初頭段階の遺構群と推定している。

しかしそれぞれの遺構の機能・性格、そして遺構間の相関関係については明らかにできなかった。

(佐野)

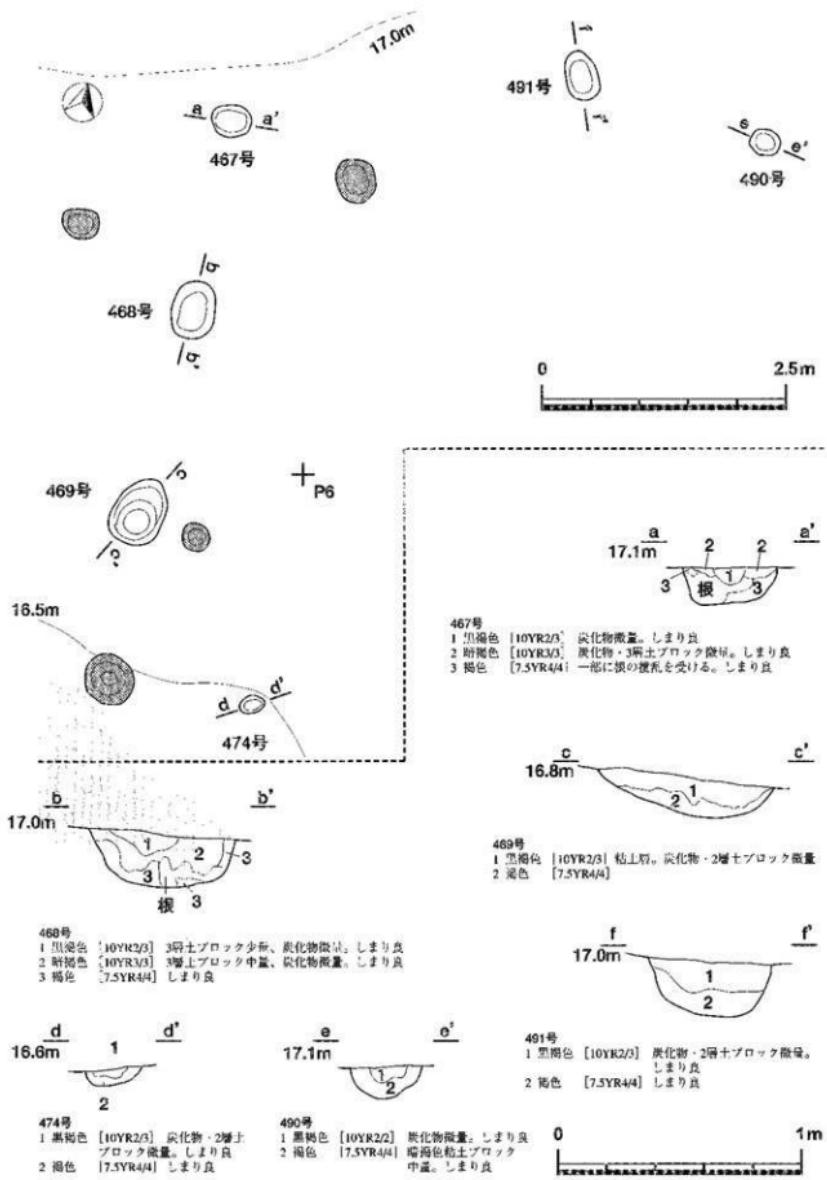


図115 467~489・474・490・491号

4-4-36 472・473・

493~497号

調査区東南部O6~P6 グリッ  
ド付近に位置する遺構群である。

年代判定の根拠となる遺物は  
出土していないが、主な覆土の  
色調が暗褐色であることから、  
これらを近隣に位置する縄文中  
期末葉～後期初頭の遺構群とし  
て取り扱っている。

なお、遺構間の相関関係やそ  
れぞれの遺構の機能・性格につ  
いては不明である。 (佐野)

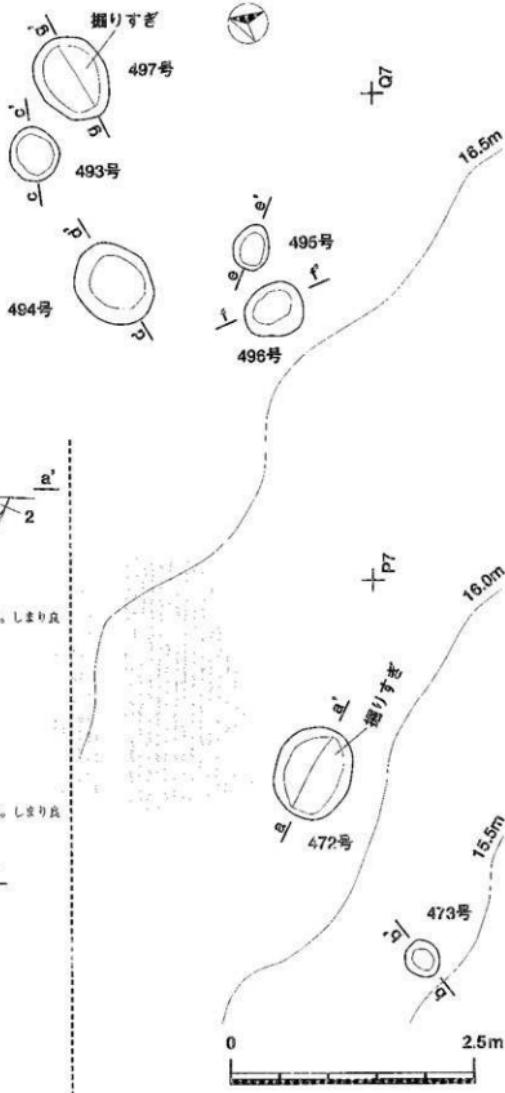


図116 472・473・493~497号

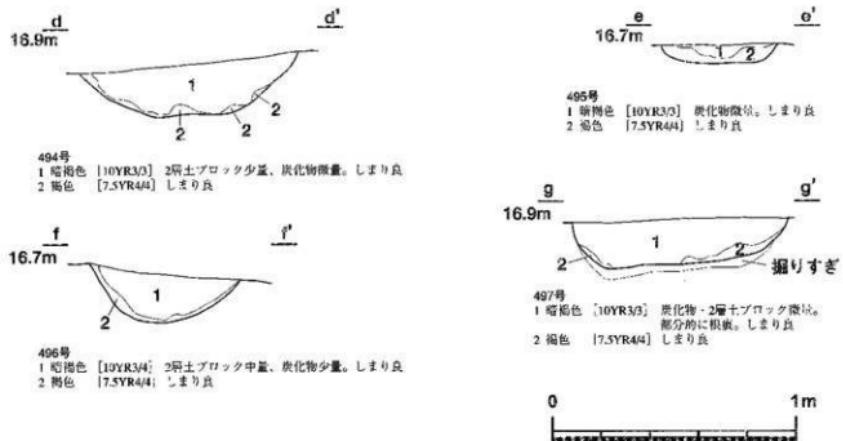


図117 494~497号 土層断面図

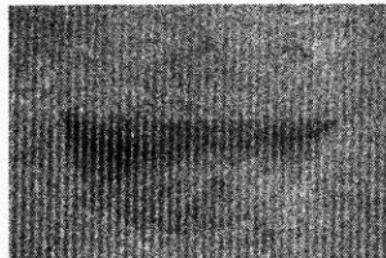


写真86 493号（南から）

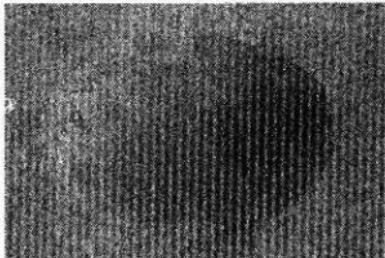
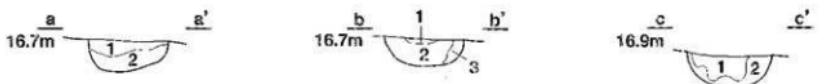
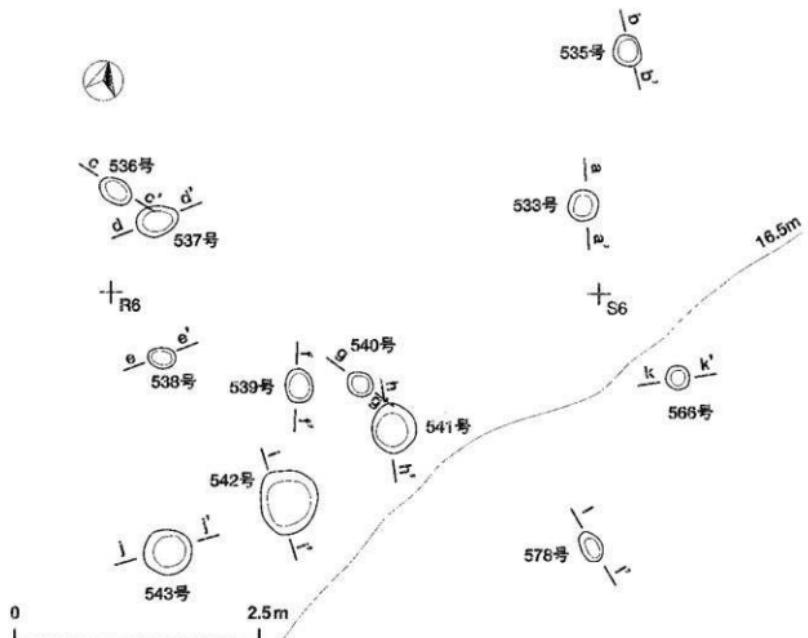


写真87 496号（西から）

#### 4-4-37 475・498~501・533・535~543・561・562・566・574・578号

調査区東部のR6グリッド付近に位置し、縄文後期初頭段階の遺構と推定されたものをここで一括して扱った。

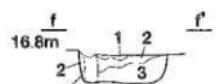
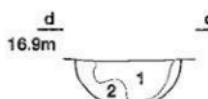
これらの遺構の覆土が主に暗褐色を呈することから後期初頭段階の遺構群としたが、561・562号のように根の影響によって覆土の色調が暗褐色となっているものもあるなど、全体に根の搅乱・侵入を受けている。そのためここに掲げた遺構の多くが根跡ではないかとの疑いも持ったが、覆土の状況や遺構とするのに相応しい掘方の状況から遺構として取り扱っている。なおこれらの遺構から遺物は出土しておらず、それぞれの遺構の機能・性格も不明である。  
(佐野)



533号  
1 黒褐色 [10YR2/3] 塩化物・2層土ブロック  
少母。しまり良  
2 暗色 [7.5YR4/4] しまり良

535号  
1 黒褐色 [10YR2/3] 塩化物微量。しまり良  
2 細粉色 [10YR3/4]  
3 深色 [7.5YR4/4] しまり良

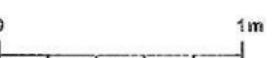
536号  
1 黒褐色 [10YR2/3] 2層土ブロック少量、  
塩化物微量。しまり良  
2 暗色 [7.5YR4/4] しまり良



537号  
1 黒褐色 [10YR2/3] 粘土層。2層土ブロック  
ク中层。しまり良  
2 暗色 [7.5YR4/4] 粘土層。しまり良

538号  
1 黒褐色 [10YR2/3] 塩化物・2層土ブロック  
微量。しまり良  
2 暗色 [7.5YR4/4] しまり良

539号  
1 黒褐色 [10YR2/3] 塩化物微量。しまり良  
2 細粉色 [10YR3/4]  
3 層上ブロック少层。  
しまり良  
3 暗色 [7.5YR4/4] しまり良



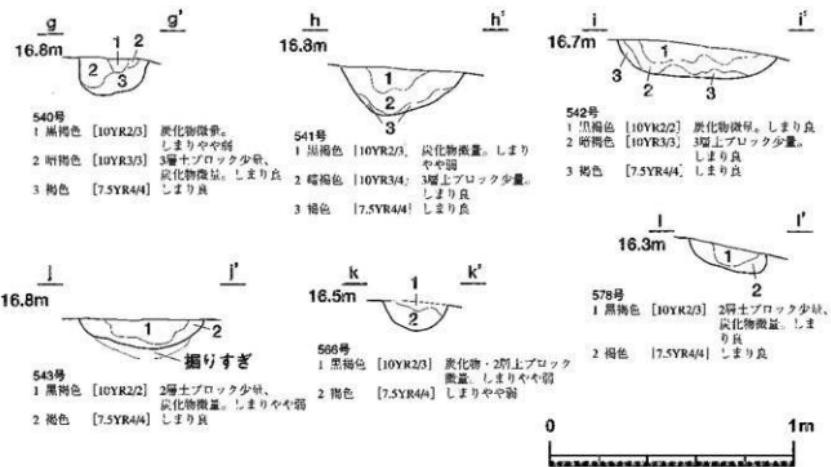


図119 540～543・566・578号 土層断面図

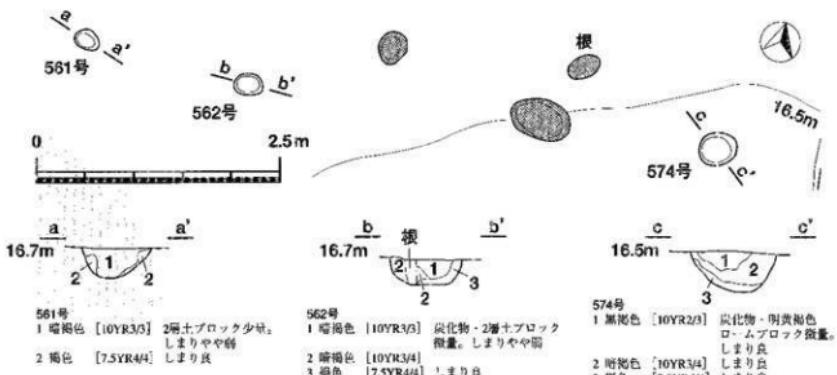


図120 561・562・574号

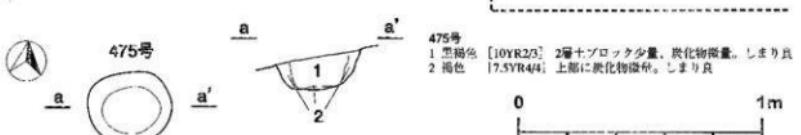
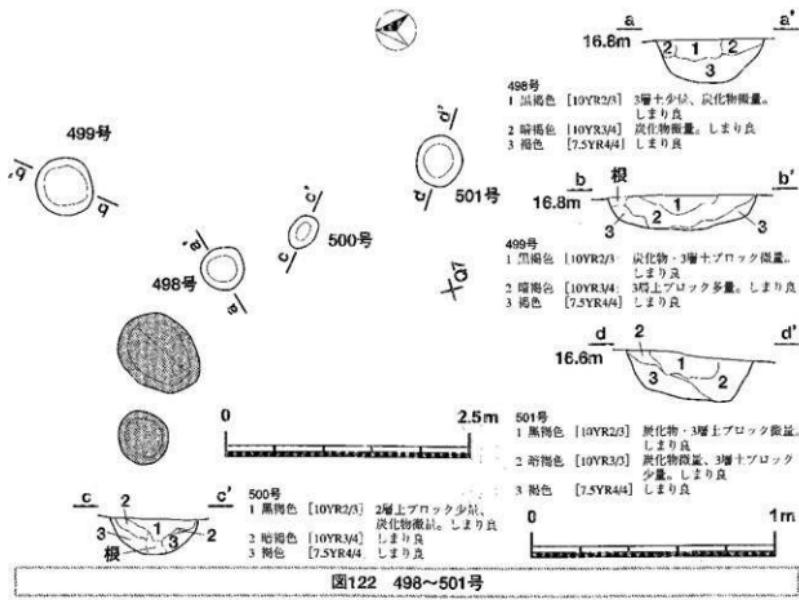
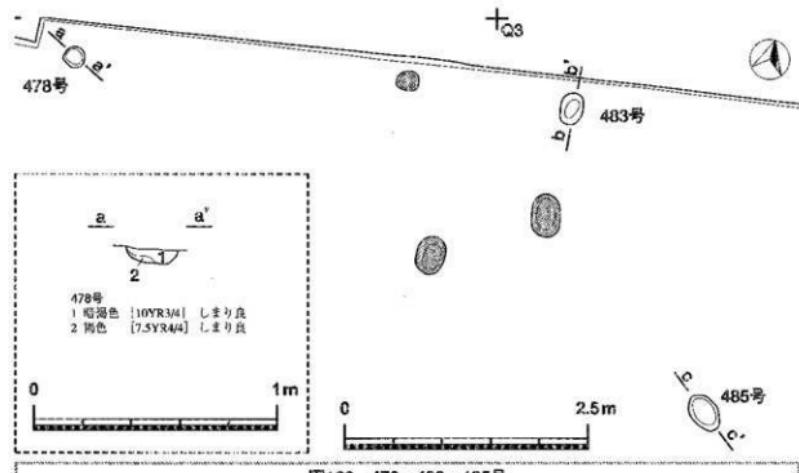


図121 475号



4-4-38 478・483・485号

調査区北東部のP3～Q3グリッドに位置する遺構群で、出土遺物はないが、主に暗褐色を呈する覆土の色調から縄文中期末葉～後期初頭段階の遺構群と推定された。それぞれの遺構の機能・性格は不明である。



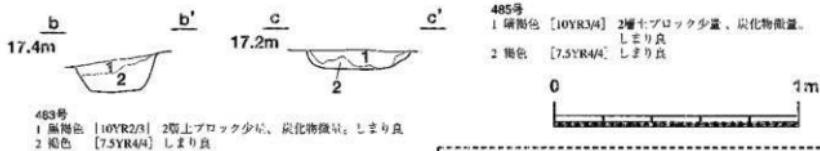


図124 463・485号

#### 4-4-39 479・481・482・484号

調査区北東部のP3～Q3グリッドに位置する性格不明の遺構群である。481・482号は覆土が暗褐色を呈しているが、根の影響を受けた結果変色したものと考えられ、本来は479・484号同様黒褐色を呈していたものと推定された。これらは、縄文後期初頭の遺構と判断された。出土遺物はない。(佐野)

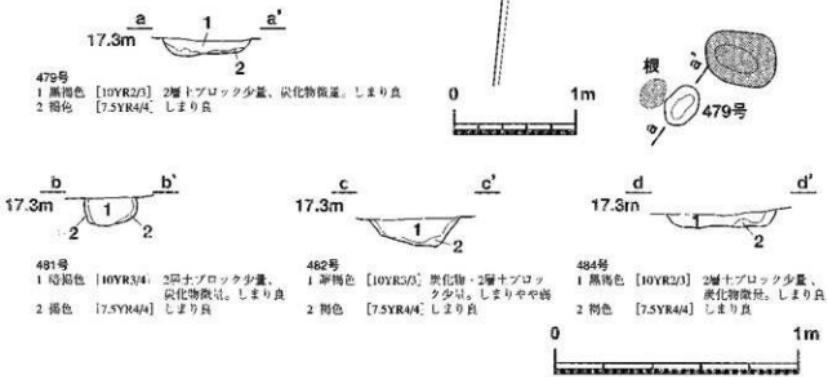


図125 479・481・482・484号

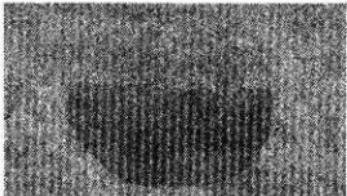


写真33 481号(南から)

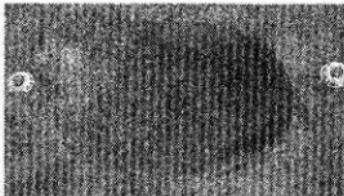


写真34 482号(西から)

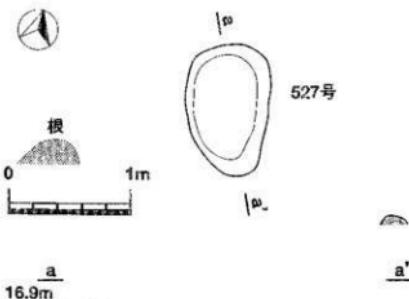
#### 4-4-40 480・486・487・527号

調査区北東部のQ4グリッド付近に位置する遺構群である。いずれの遺構も根の侵入を受けており、根跡の可能性も考えられたが、覆土や掘方の状況から遺構として取り扱っている。

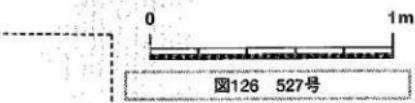
遺物は480号1層より年代不詳（縄文中期末以降？）の土器片が1点出土している以外になく、年代決定の資料にはならないが、覆土が黒褐色を呈し、しまりがよいことから、これらの遺構は、縄文後期初頭～前葉段階のもとの推定された。

なお、それぞれの遺構の機能・性格については不明である。

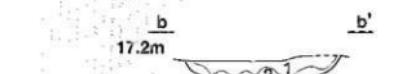
(佐野)



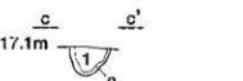
- 527号  
 1 黒褐色 [10YR2/2] 沈化物・2層土ブロック少量。しまりやや弱  
 2 深褐色 [10YR2/3] 沈化物・2層土ブロック微量。しまり良  
 3 茶褐色 [10YR4/2] 3層土ブロック微量。しまり良  
 4 頭色 [7.5YR4/4] しまり良



- 487号  
 1 黒褐色 [10YR2/3] 2層土ブロック中量、沈化物微量。上部に粘土ブロック少址。  
 2 頭色 [7.5YR4/4] しまり良



- 486号  
 1 黒褐色 [10YR2/2] 2層土ブロック微量、沈化物微量。しまり良  
 2 頭色 [7.5YR4/4] しまり良



- 487号  
 1 黒褐色 [10YR2/3] 2層土ブロック少址、沈化物微量。しまり良  
 2 頭色 [7.5YR4/4] しまり良

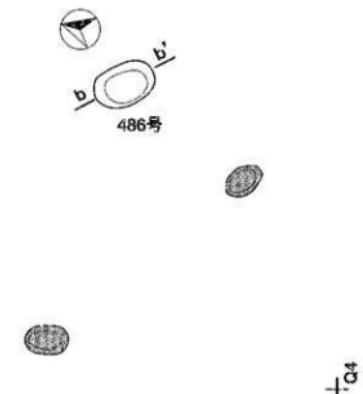


図127 480・486・487号

#### 4-4-41 488・489・519・524・530・531・534号

調査区東部のQ5～R5 グリッド付近に位置する性格不明の遺構群である。いずれの遺構からも出土遺物はないが、覆土の色調が暗褐色を呈すること、また519号が後期初頭段階の遺構（518号）に掘り込まれていることから、縄文中期末葉～後期初頭段階の遺構群と推定された。（佐野）

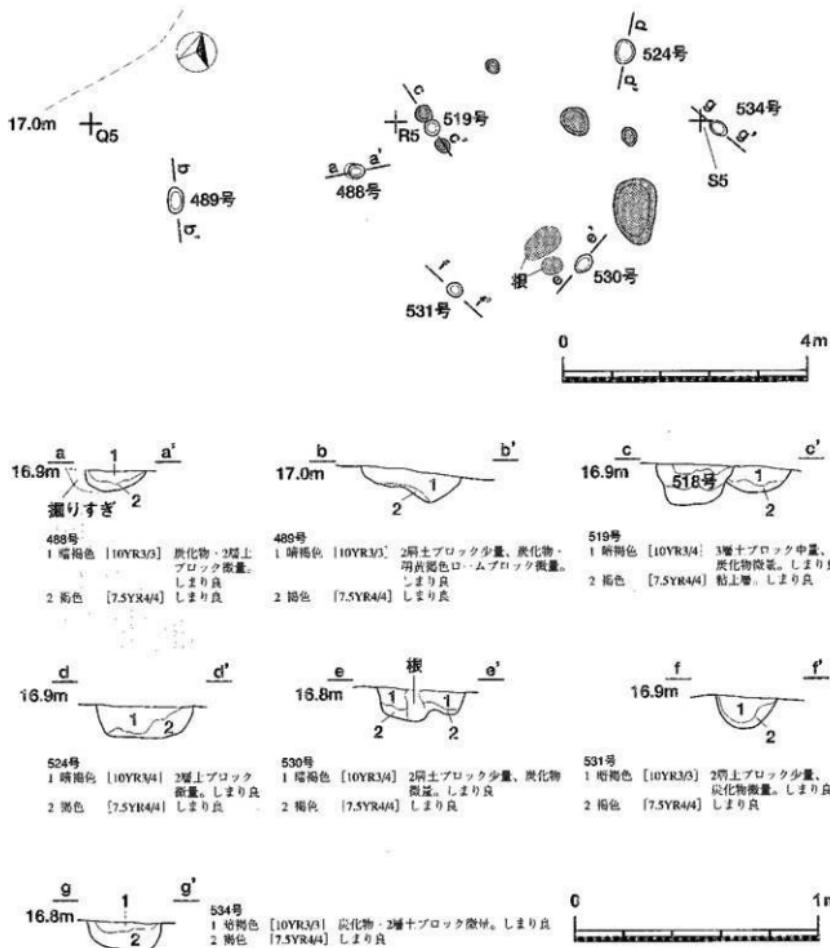


図128 488・489・519・524・530・531・534号

4-4-42 504・505・507~510・512・513・515・516・518・520・521  
 ・523・525・526・532・559・560号

調査区北東端部のR3~S4グリッド付近に位置する同一段階と考えられる遺構群である。弧状に並ぶ状況がみられたため、後世の植林等によって上部構造を失った堅穴住居跡に伴う遺構群ではないかとも考えられたが、それぞれの遺構の機能・性格や遺構間の相関関係は不明である。518号が中期末葉～後期初頭段階の遺構（519号）を掘り込んでいること、主な覆土の色調が黒褐色を呈すること、532号より中期末葉～後期初頭の土器片が少量出土していることから、縄文後期初頭段階の遺構群と判断された。なお覆土が暗褐色を呈する遺構もあるが、これは根の影響による変色と考えられた。（佐野）

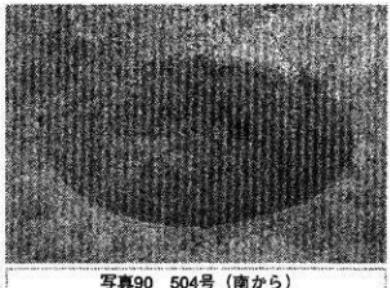


写真90 504号 (南から)

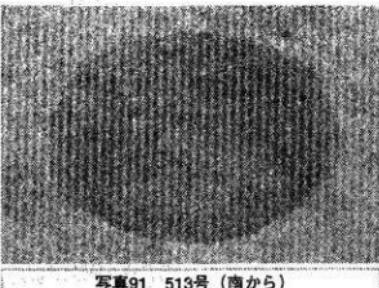


写真91 513号 (南から)

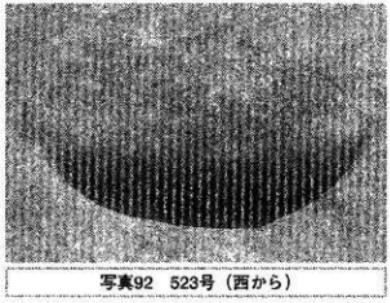


写真92 523号 (西から)

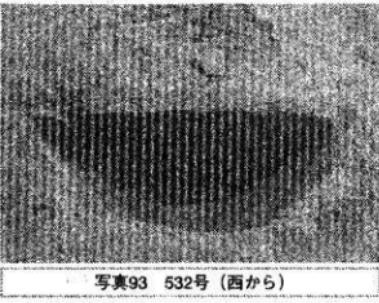


写真93 532号 (西から)

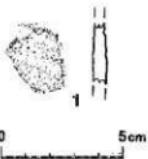


図129 532号 出土遺物



写真94  
532号 出土遺物

表30 532号 出土遺物観察表

No.	種別	器形	部位	層位
1	縄文土器	深鉢形土器	柄	1層

年 代	型 式	備 考
中期末葉～後期初頭	—	

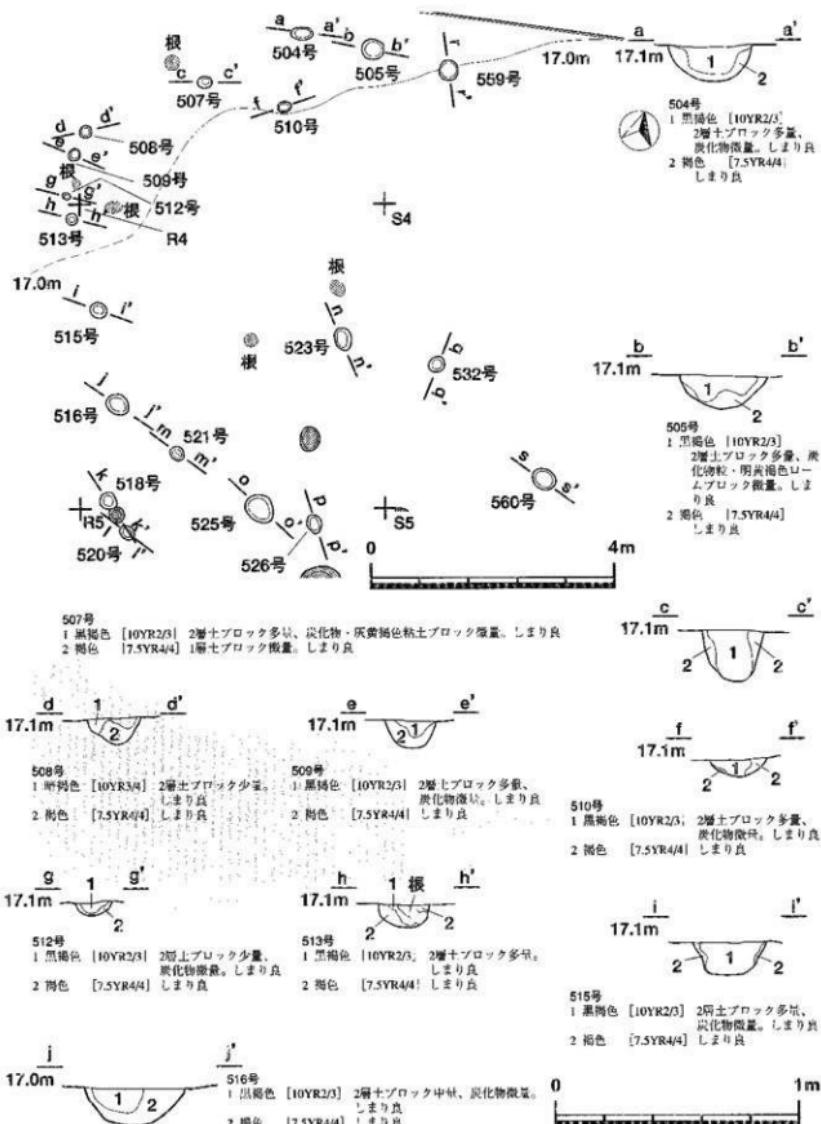


図130 504・505・507~510・512・513・515・516・518・520・521・523・525・526・532・559・560号

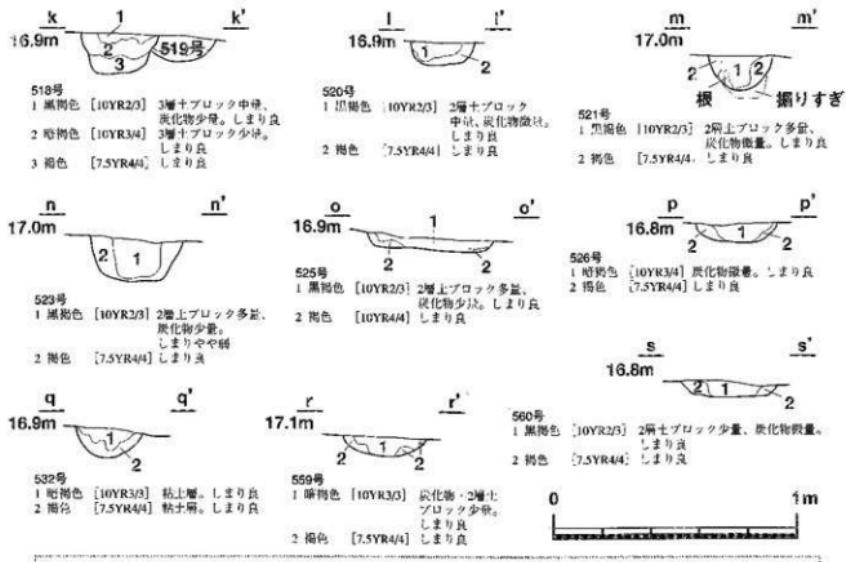


図131 518・520・521・523・525・526・532・559・560号 土層断面図

#### 4-4-43 563~565・570~572号

調査区東端部付近のS 5 ~ T 5 グリッドに位置する同一段階の性格不明遺構群である。出土遺物はないが、覆土の色調が暗褐色を呈することから、縄文中期末葉～後期初頭の遺構群と推測された。(佐野)

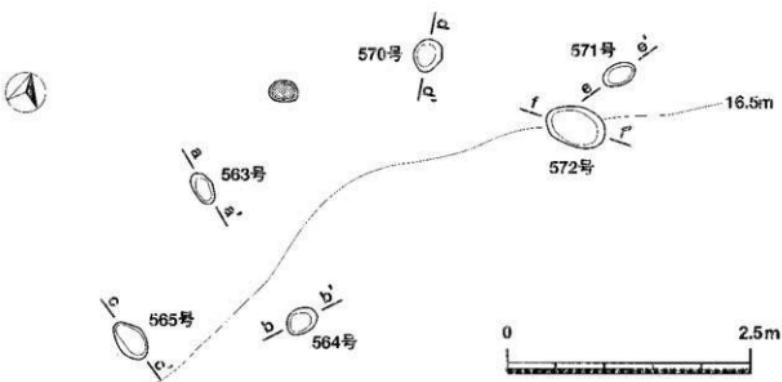


図132 563~565・570~572号

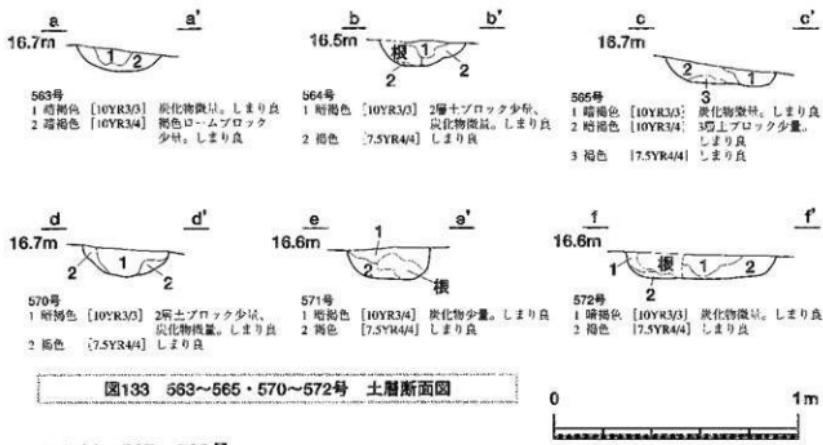


図133 563～565・570～572号 土層断面図



#### 4-4-44 567・569号

調査区北東端部のT3～T4グリッドに位置する2基の性格不明な遺構である。両者とも遺物は出土していないが、覆土の色調が暗褐色を呈することから、縄文後期初頭段階の遺構と判断している。  
(佐野)

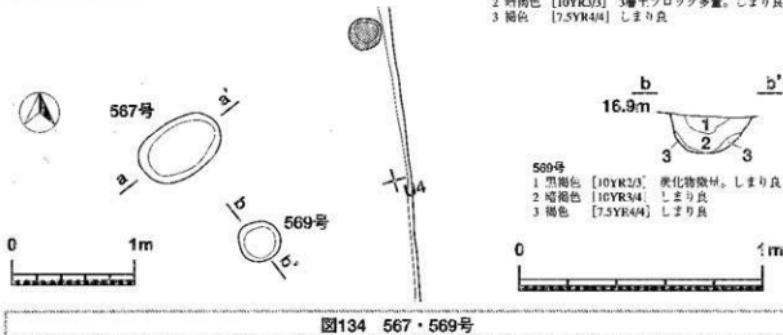


図134 567・569号

#### 4-4-45 568号

調査区北東端部のT3～U3グリッドに位置する性格不明なピットである。出土遺物はなく、近隣にも同一段階と考えられる遺構は所在しない。

また確認された掘り込みも浅いため、根跡ではないかとも考えたが、それを積極的に支持できなかったため遺構として取り扱っている。

覆土が暗褐色を呈することから、縄文時代中期末葉～後期初頭段階の遺構と推測している。(佐野)

#### 4-4-46 575・579号

調査区南東端部のR7グリッドに位置する2基の性格不明な遺構である。出土遺物はないが、暗褐色を呈する復土から、両者とも縄文中期末葉～後期初頭段階の遺構と推定された。

(佐野)

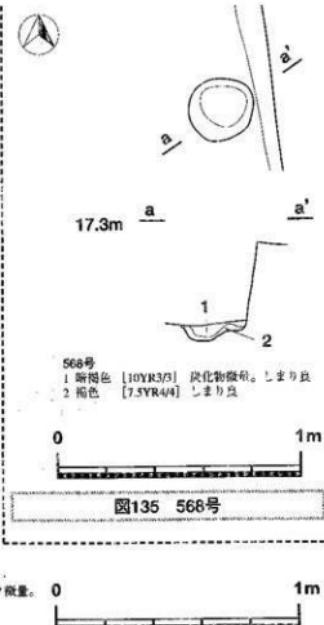
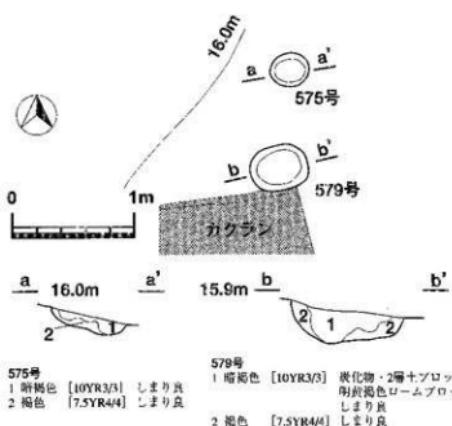


図136 575・579号

#### 4-5 その他の遺構

平成17～18（2005～06）年度の筒木坂屏風山遺跡の調査では、縄文時代の遺構として、これまでに述べた竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑・ピットのほか、埋設土器（土器埋設遺構）と配石遺構が発見されている。

埋設土器（103号）は、平成17（2005）年度調査区の西端部で1基確認され、年代的には縄文後期初期段階のものである。

また配石遺構は平成18（2006）年度調査区の北東端部で2基確認され、縄文後期初期段階の組石石棺墓のようなものと、土坑内に配石された後期初頭～前葉段階の遺構がある。

これらの年代は、先に述べてきた縄文時代の遺構群の年代（中期末葉～後期初頭・後期初頭～前葉）とリンクするものであり、これらの非日常的と考えられる遺構も今回の調査地点付近で定住していた人々が残したものと言うことができる。

おそらく今回の調査地点周辺にも、平成17～18年度の調査で発見されたような年代・種類の遺跡が埋蔵されているものと推測される。

(佐野)

#### 4-5-1 103号

調査区西端部のA3グリッドで確認された埋設土器（土器埋設遺構）である。埋設された土器は縄文後期初頭の深鉢形土器（図138-1）で、倒立した状態で土坑内に設置されていた。なお上部に位置する土器の胸部下～底部は欠損していたが、埋設された段階ですでに人為的に打ち欠かれていた可能性もあるもの、今回の調査区が後世の植林等による搅乱・削平を受けていることから、おそらく後世に失われたものであろうと推測している。

この遺構の機能・性格については、検出状況から、土器の内部に人骨を埋葬したいわゆる「土器棺墓」で、葛西勲氏の分類の「IB-b1類」（葛西2002）にあてはまるものと推測した。しかし土器内部の土層中に入骨等の痕跡は確認されていない。ゆえに状況的には土器棺墓としたいが詳細は不明である。

なお、調査時には1基の遺構として取り扱ったが、103号は南北に2基の土坑があるように見受けられ、埋設土器は北側の土坑に設置されている状況がみて取れる。埋設土器（土器埋設遺構）の年代は縄文後期初頭と判断されたが、南側の土坑の覆土は暗褐色を呈しており、北側の土坑に掘り込まれている状況がみてとれるため、覆土から南側の土坑は、縄文中期末葉～後期初頭段階のもので、埋設土器とは別遺構（103号b）と判断された。（佐野）

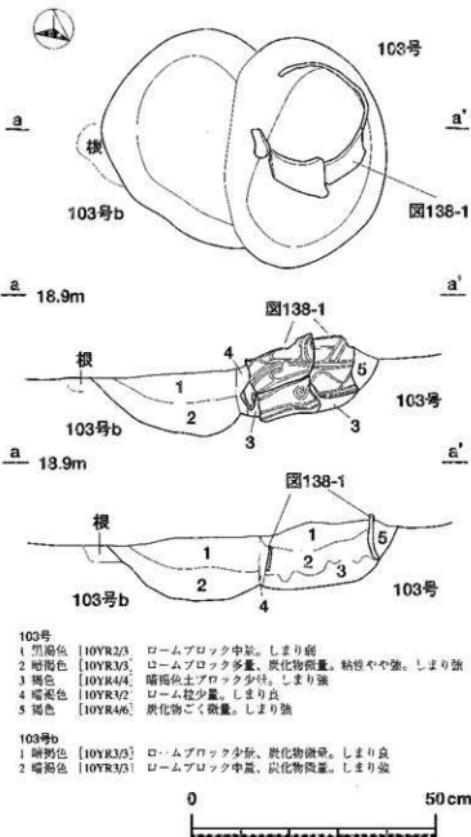


図137 103号

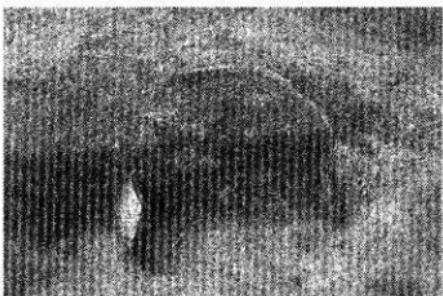


写真95 103号（東から）

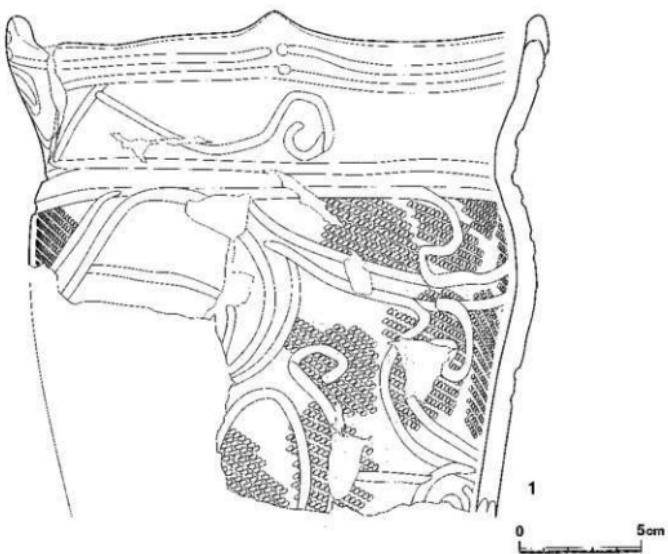
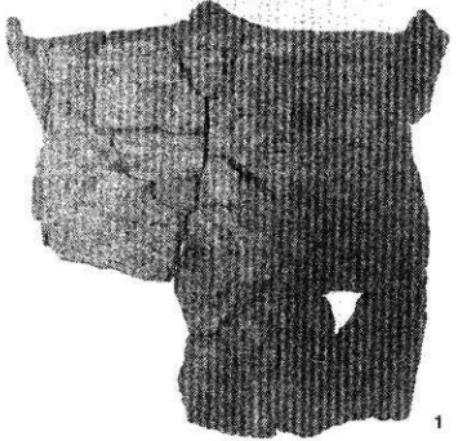


圖138 103号 出土遺物

表31 103号 出土遺物觀察表

No.	種別	器形	部位	層位	年代	型式	備考
1	繩文土器	深鉢形土器	口縁~胴	1~5層	後期初頭	一	複設土器



寫真96 103号 出土遺物

#### 4-5-2 576号

調査区北東端部のT3グリッドで確認された配石造構である。Ⅲ層を剥いでいる段階で確認され、Ⅲ層下半とⅣ層を掘り込む掘方が認められた。配石には、安山岩・珪質凝灰岩・凝灰岩が用いられており、全てに板状にかたちづくった加工痕がある。

これに関連する出土遺物はないが、掘り込みから判断して、縄文後期初頭段階の配石造構と推測している。

なお、遺構の機能・用途については、列状に直線的に並べられていることから、石棺墓ではないかと推測している。対になる配石列は未発見であるが、周囲の搅乱から、この配石造構に用いられたものと同様な形態・石材の石が見つかっており、後世の植林等による搅乱によって遺構の半分以上が破壊されたのではないかと推測している。また前述した埋設土器（103号）は石棺墓と推測されるこの配石造構と同段階の遺構であり、これらの石棺墓に1次埋葬された人骨を再葬（2次埋葬）したものなのではないかとも考えられた。

（佐野）

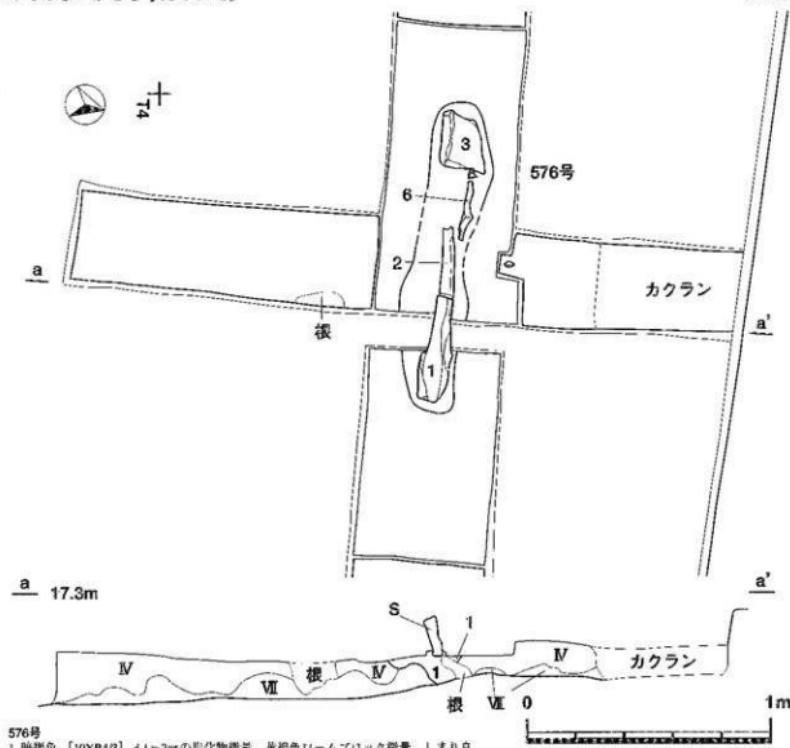


図139 576号

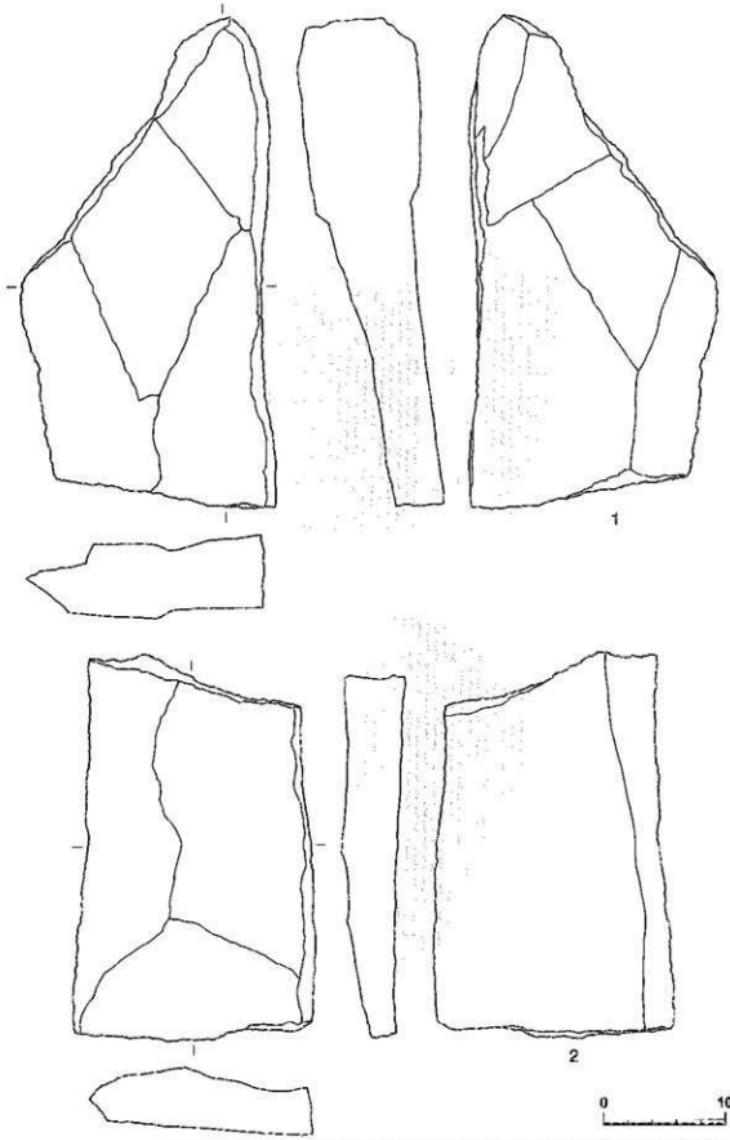


圖140 576号 通構出土遺物①

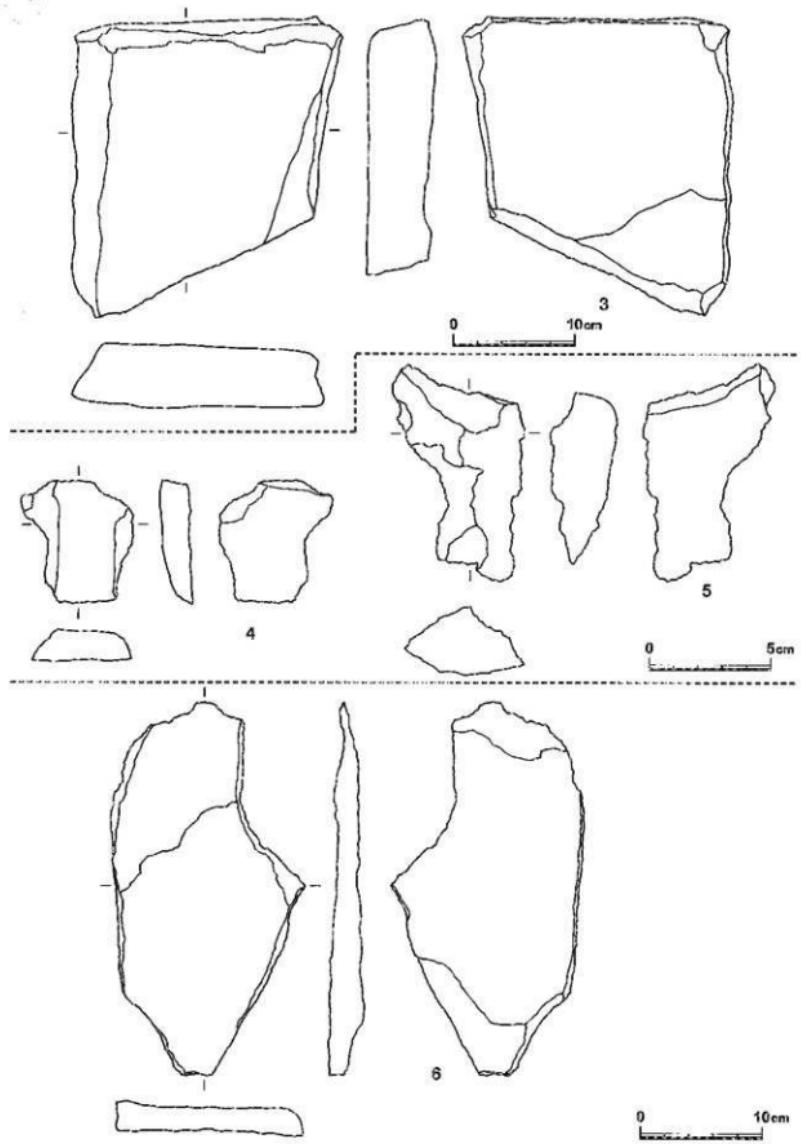


图141 576号 出土遗物②

表32 576号 出土遺物観察表

No.	種別	器形	部位	層位	年代	石材	備考
1	石器	—	—	1層	—	安山岩	面取り
2	石器	—	—	1層	—	安山岩	面取り
3	石器	—	—	1層	—	珪質凝灰岩	面取り
4	石器	—	—	1層	—	珪質凝灰岩	面取り
5	石器	—	—	1層	—	凝灰岩	面取り
6	石器	—	—	1層	—	凝灰岩	面取り

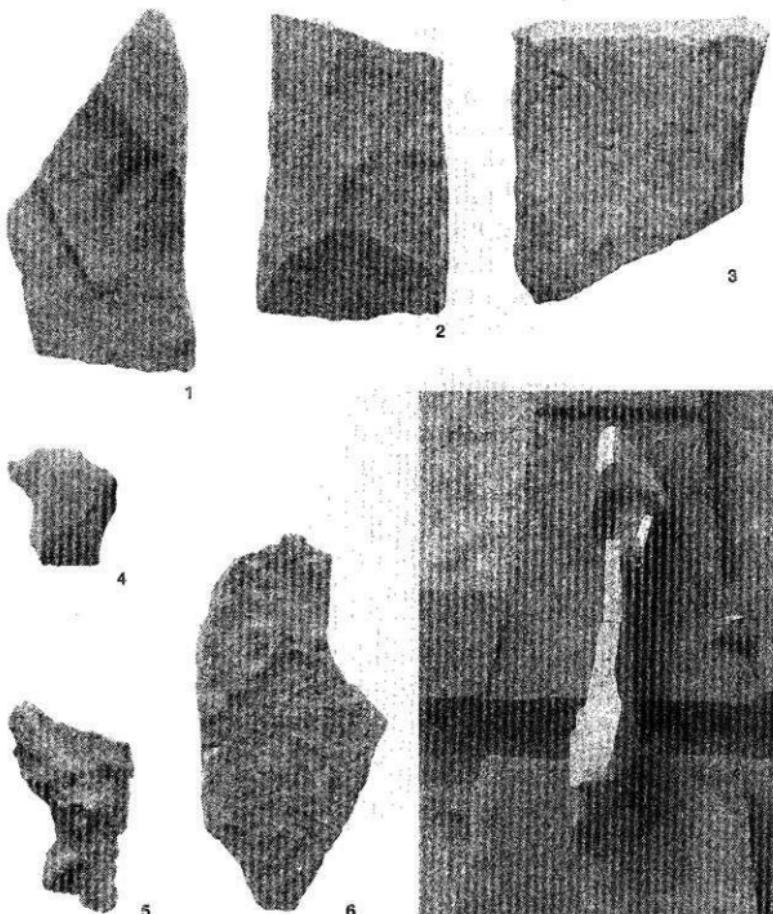


写真97 576号 出土遺物

写真98 576号 (東から)

### 4-5-3 577号

調査区北東端部のS4～T5グリッドで確認された配石造構である。配石に用いられた石材は安山岩であり、加工痕や被熱赤変したものもあり、これらは2次利用・転用されたものと推測された。

配石は、造構覆土内に沈み込んだ状況で確認されたが、これは覆土の沈降や配石を覆っていた層による土圧等の影響の結果と推定され、本来は造構覆土上面にのっていたものと判断された。

年代判定の根拠となる土器等の出土はないが、覆土2層がしまりの良い黒褐色土であることから、縄文後期初頭～前葉段階の造構と推測された。

長軸方向2m×短軸方向1.5mほどの平面規模を有し、平坦な底面を持つことから、該期の配石墓の一種ではないかとも考えたが、人骨等これを積極的に支持する発見はない。非日常的な性格の造構と推定している。

(佐野)

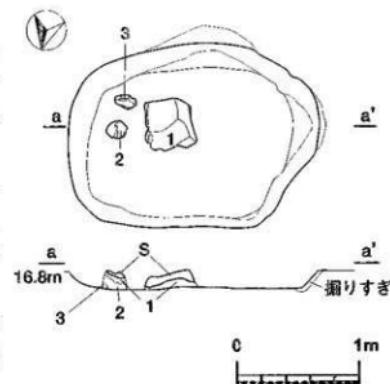


図142 577号

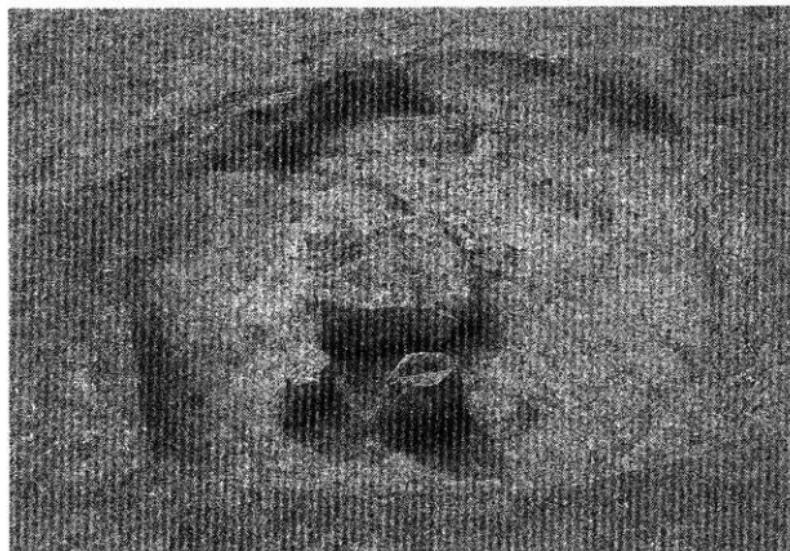


写真99 577号(東から)

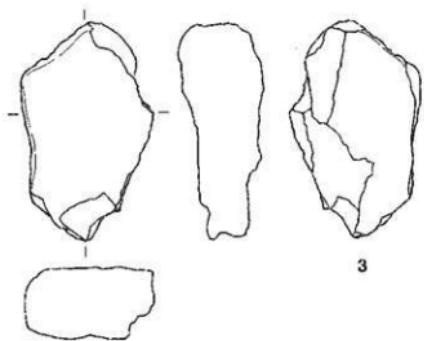
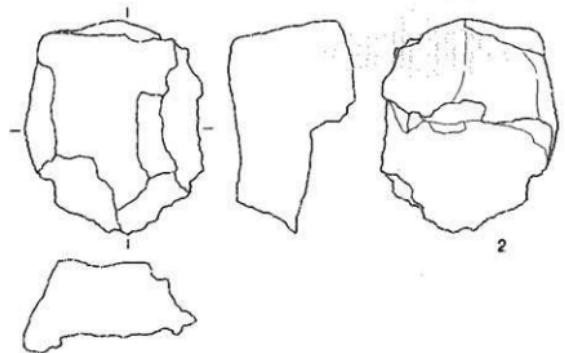
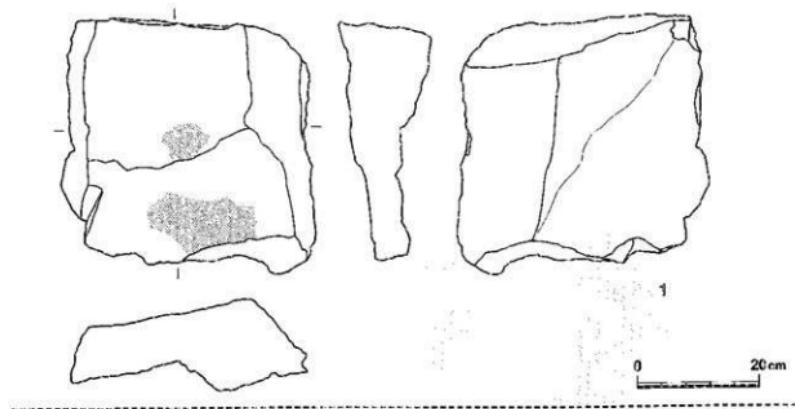
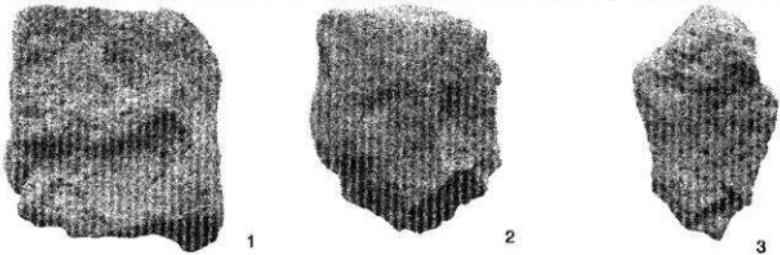


圖143 577號 出土遺物

表33 577号 出土遺物観察表

No.	種別	器形	部位	層位	年代	石材	備考
1	石器	—	—	1層	—	安山岩	磨面あり
2	石器	—	—	1層	—	安山岩	赤斑
3	石器	—	—	1層	—	安山岩	

写真100 577号 出土遺物



## 第5章 平安時代の遺構

### 5-1 概要

486基の遺構のうち約1割の35基が平安時代の遺構であった。組合せ等の結果、これらの遺構は堅穴住居跡、炭窯、土坑・ピット、その他の遺構と判定された。層の残りのよい炭窯に10C前半とされる白頭山-苦小牧火山灰（B-Tm）がみられるため、今回発見の遺構はそれ以前の9C末葉～10C前葉のものと判断された。なお想定される遺構の軸線は何通りもあり、複数段階の遺構があるとも考えられたが、その先後関係は明らかにできなかった。

(佐野)

### 5-2 住居跡

遺構の組合せの結果、調査区中央部で平安時代の堅穴住居跡と推定されるものが1基所在する。年代的には、白頭山-苦小牧火山灰（B-Tm）降灰以前の9C末葉～10C前葉のものと推定された。（佐野）

#### 5-2-1 156・164・165・209～212・247・248・251～253・257～261

#### ・370・374～378・380号

調査区中央部のJ3～K4グリッド付近で、平成17～18年度に確認された24基の遺構の組合せである。遺構覆土の色調はまちまちであるが、すべてグライ化した色調となっていることから近隣に位置する同一段階の遺構と考えられた。また258～376号が南東部の壁周溝と推定され、374号覆土1層が焼上層であることからカマド前庭部と想定されたため、南北9m×東西5.6m程度の規模で東壁や南寄りにカマドを持つ上部構造を失った堅穴住居跡と推定している。想定される住居範囲の東側に位置する遺構群もこれに関連するものと考えられた。年代的には白頭山-苦小牧火山灰（B-Tm）降灰以前の9C末葉～10C前葉のものと推定している。なお遺物は出土していない。

(佐野)

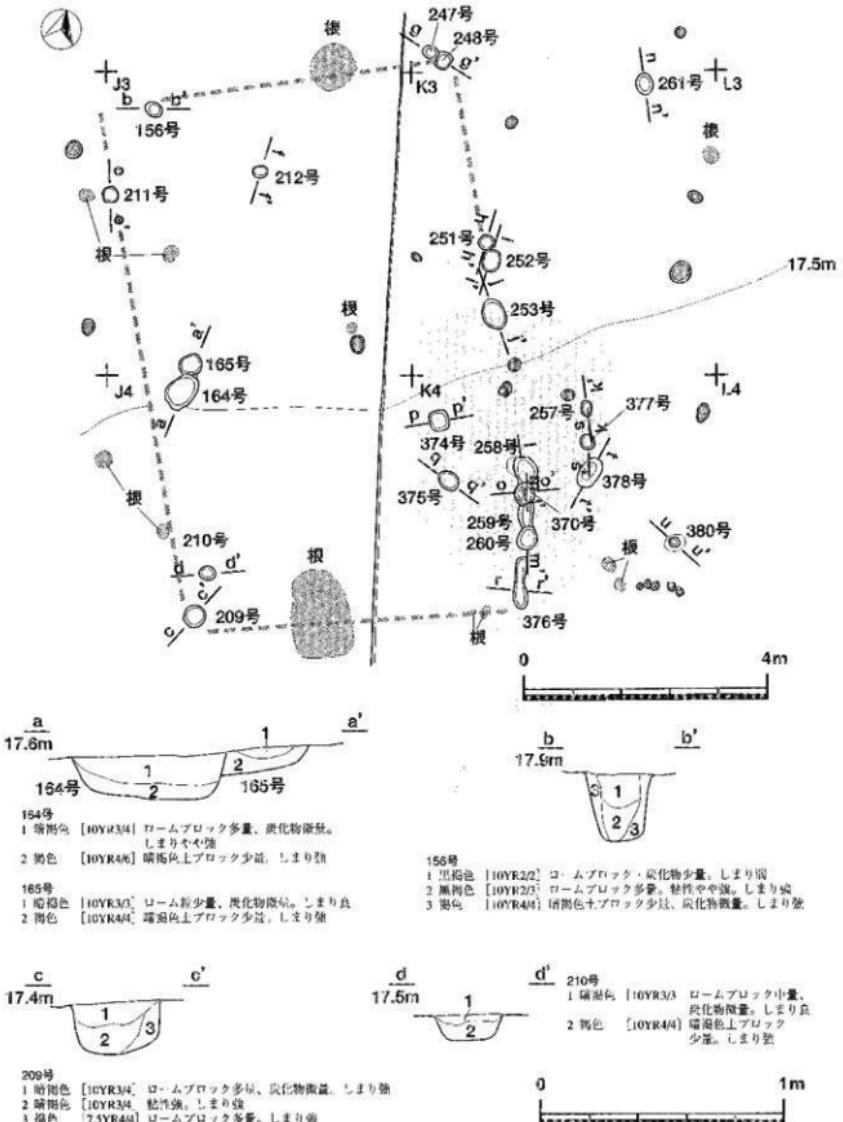


図144 156・164・165・209・212・247・248・251～253・257～261・370・374～378・380号

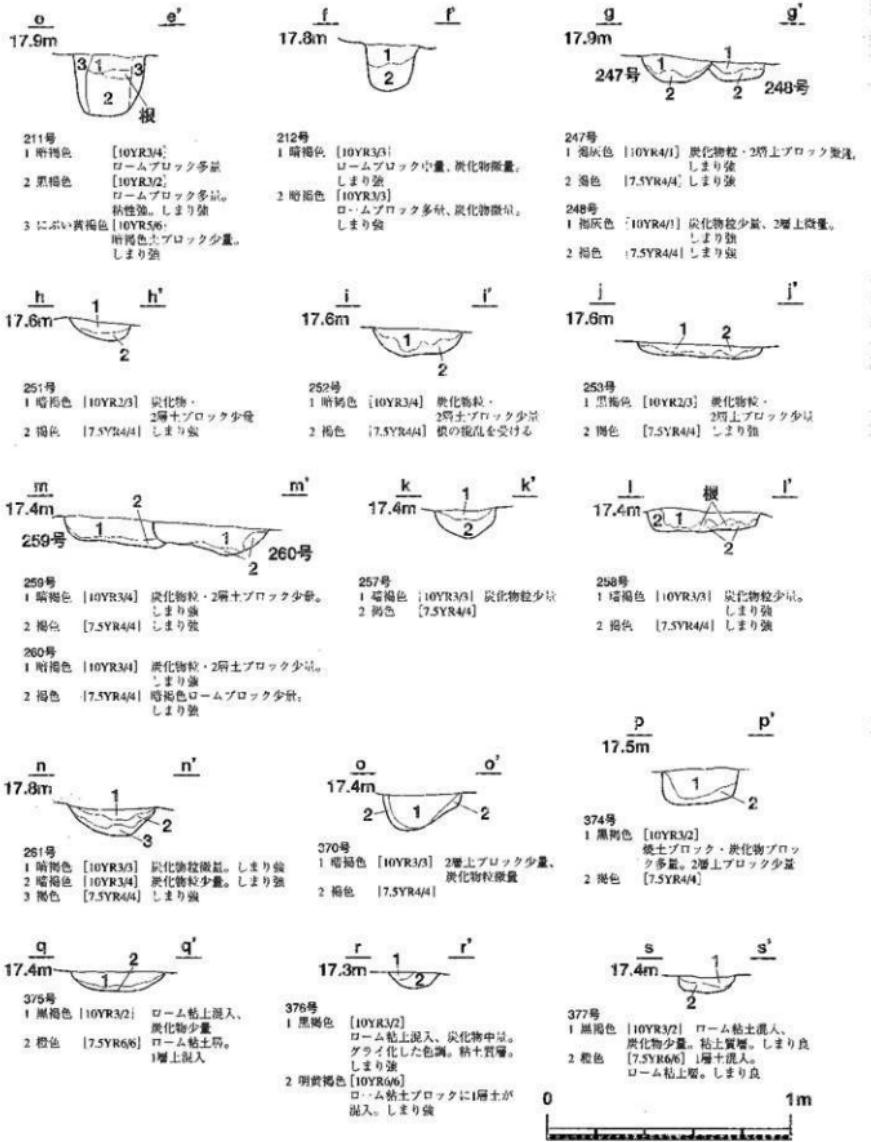


図145 211・212・247・248・251~253・257~261・370・374~377号 土壌断面図

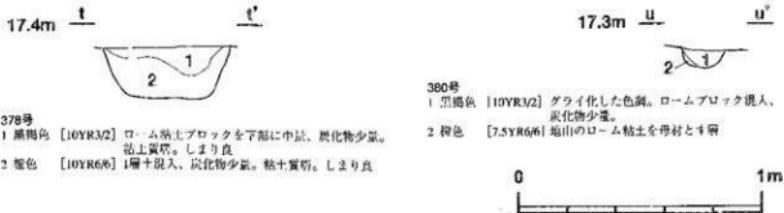


図146 378・380号造構土壁断面図

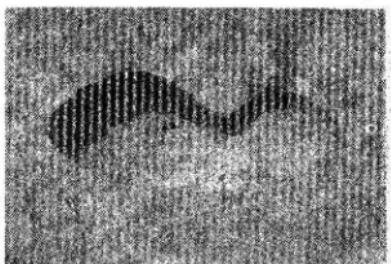


写真101 164号(左)・165号(右)(東から)

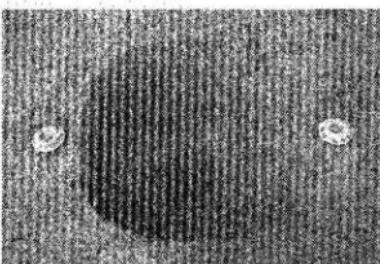


写真102 374号(南から)

### 5-3 土坑・ピット

調査区東側で散発的に平安時代の土坑・ピットを確認している。年代的には、白頭山-苔小牧火山灰(B-Tm)降灰以前の9C末葉~10C前葉のものと推定されたが、造構の機能・性格は不明である。(佐野)

#### 5-3-1 372・391・399・471号

調査区東側で覆土の色調が灰褐色やグライ化した暗褐色を呈する遺構を9C末葉~10C前葉のものと判断した。遺物は471号2層より土師器壊の破片が1点出土している。(佐野)

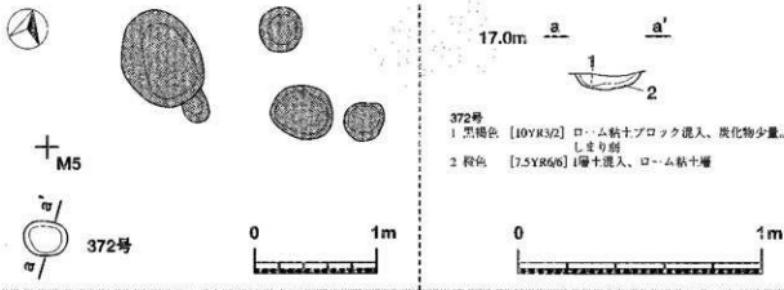


図147 372号

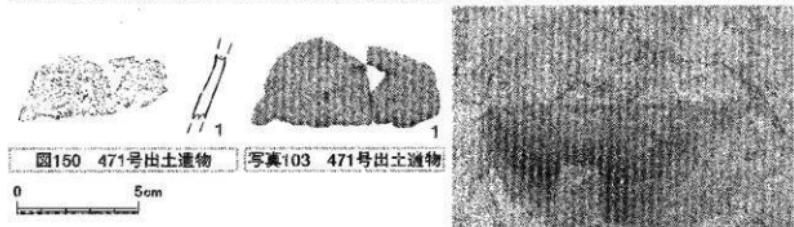
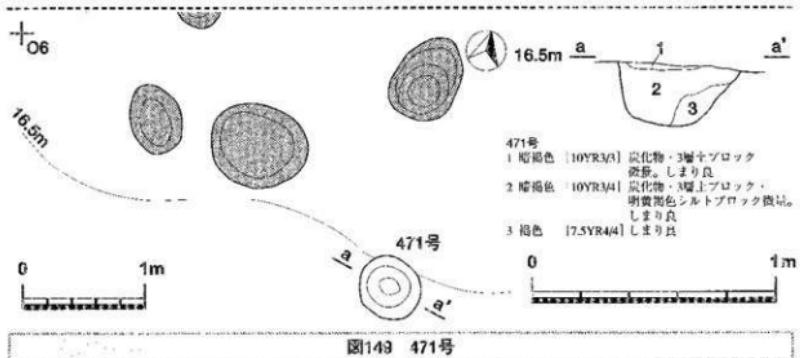
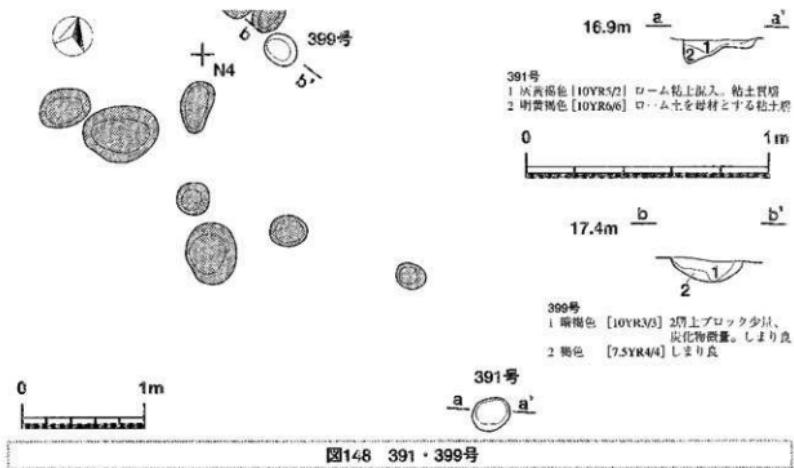


表34 471号 出土遺物観察表							
No.	種別	器形	部位	層位	年代	型式	備考
1	土師器	壺	腹	1・2層	平安	—	

## 5-4 炭窯

調査区西側で3基の炭窯跡を検出した。遺構の軸線の違いから23・30号は同時期で、27号は異なる時期と推測されたが、先後関係は明らかにできなかった。これらはすべて白頭山-苦小牧火山灰（B-Tm）に降灰以前の9C末葉～10C前葉の遺構と推定している。（佐野）

### 5-4-1 23号

調査区西北のB2グリッドで検出された。1辺が1.7mほどを測る隅丸方形の平面形状を呈し、北北東～南南西方向に遺構の軸線を持つ。軸線の傾きは30号と類似する。覆土は6層に分けられ、最下層の6層に焼土・炭化物が集積しているため、炭窯跡と判定している。

また4層に10C前葉に降灰したとされる白頭山-苦小牧火山灰（B-Tm）の堆積がみられることから、これ以前に埋積された、平安時代中期の9C末葉～10C前葉の遺構と考えられた。土器等の遺物は出土していない。

（佐野）

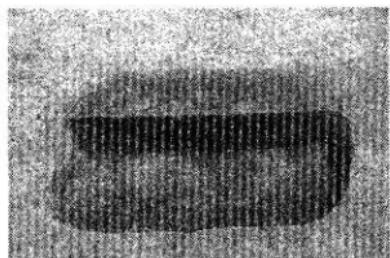


写真105 23号土層断面（南から）

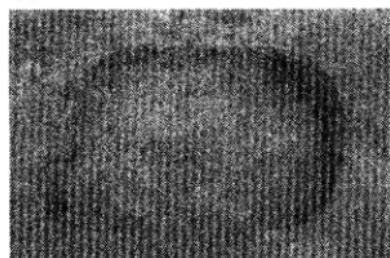
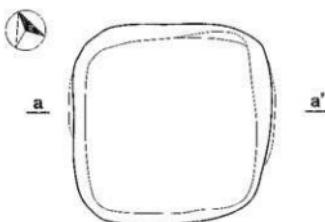
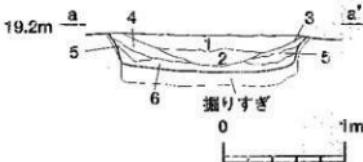
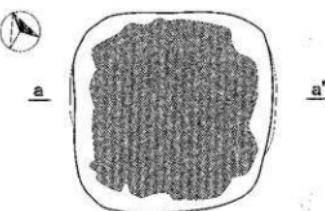


写真106 23号発掘状況（南から）

<平面図>



<焼土・炭化物分布図>



- 23号
- 1 黒色 [10YR2/1] 細粒の土質、純土粒・炭化物粒を全体的に微量
  - 2 黒色 [10YR2/1] 細粒の土質、粘粒～粒状の燒土を全体的に少量化
  - 3 黒褐色 [10YR3/3] 細粒の土質、炭化物・苔状（ $\phi 1\sim2mm$ ）の黄褐色土微量
  - 4 黒色 [10YR2/1] 細粒の土質、B-Tm下部に多量。しまりやや弱
  - 5 黑褐色 [10YR3/4] 細粒の土質、粒状（ $\phi 2\sim3mm$ ）の黄褐色土微量
  - 6 黑褐色 [10YR3/4] 細粒の土質。炭化物粒・燒土粒が全体的に混入

図151 23号

### 5-4-2 27号

調査区西南部のB5グリッドで検出された。1辺が2mほどを測る隅九方形の平面形状を呈し、調査区に設定したグリッドラインとはほぼ一致する遺構の軸線を持つ。そのため前述した23号や後述する30号とは時期がやや異なる可能性が考えられたが、先後関係を明らかにすることはできなかった。

覆土は5層に分けられ、2層以下に焼土・炭化物が堆积しているため、炭窯跡と判定している。

また1層に10C前半に降灰したとされる白頭山-苦小牧火山灰（B-Tm）の堆積がみられるところから、これ以前に埋積された、平安時代中期の9C末葉～10C前葉の遺構と考えられた。

なお土器等の遺物は出土しなかった。（佐野）

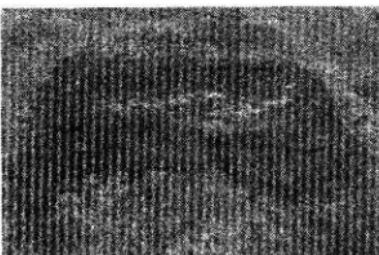
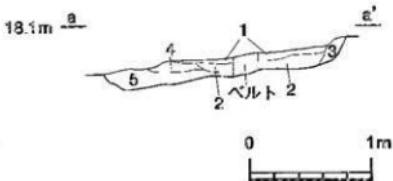
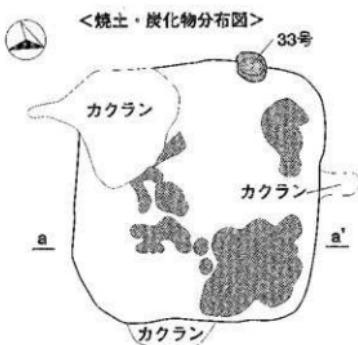
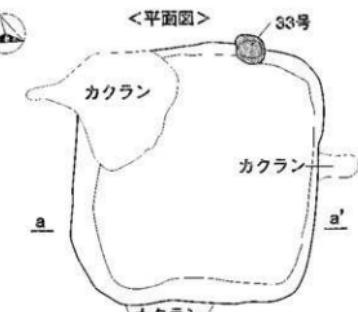


写真107 27号検出状況（南から）



写真108 27号発掘状況（西から）



- |       |                                                                   |
|-------|-------------------------------------------------------------------|
| 1 淡色  | [10YR2/1] B-Tm混入、炭化物少 <sup>な</sup> 量、しまり弱                         |
| 2 黒褐色 | [10VR2/1] 炭化物・焼土多 <sup>い</sup> 量、ローム粒中量                           |
| 3 赤褐色 | [10YR3/3] ローム混入、燒土少量、炭化物多 <sup>い</sup> 量。しまり弱                     |
| 4 茶褐色 | [10YR3/5] ロームブロック多 <sup>い</sup> 量、ローム粒中量、炭化物少 <sup>な</sup> 量。しまり良 |
| 5 黒色  | [10YR2/1] 炭化物・焼土・ローム粒混入。しまり良                                      |

図152 27号

### 5-4-3 30号

調査区西部中央寄りのG4-H4グリッドで検出された。南北方向1.7m×東西方向1.5mほどの規模を測り、不整隅丸長方形の平面形状を呈する。

ほぼ南北方向に遺構の軸線を有し、前述した23号の軸線と類似するが、27号とは異なる。ゆえに段階的には23号と同時期の遺構と考えられたが、27号との先後関係は把握出来なかった。

覆土は2層に分割されるが、両層とも炭化物の分布が顕著で、1層には灰の密な分布も認められた。そのため上器焼成遺構の可能性も考えたが炭化跡として取り扱った。

縄文中期末葉～後期初頭段階の遺構（34号）を掘り込んでいるが、そのほかには年代決定の根拠となるような遺物の出土はない。また覆土に白頭山・苦小牧火山灰は確認されなかつたが、前述したように23号と同一段階の遺構と捉えられたことから、平安時代中期の9C末葉～10C前葉の遺構と判断した。（佐野）

30号  
1 黒色 [10YR2/1] シルト質層。灰・炭化物混入。  
粘土質・少々。しまり良。  
2 紫褐色 [10YR3/3] 炭化物多量、ローム粘土中量。  
しまり良。



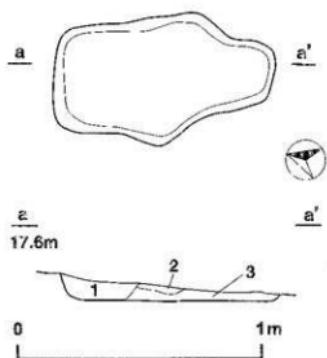
図153 30号

### 5-5 その他の遺構

前述した遺構以外に、調査区中央部付近で焼土を伴う遺構を3基検出した。機能的には炉跡や上部構造を失った堅穴住居跡のカマド跡等と考えられた。他の遺構との比較からこれらは白頭山・苦小牧火山灰（B-Tm）降灰以前の9C末葉～10C前葉の遺構と推定している。（佐野）

#### 5-5-1 230号

調査区西側中央寄りのG5-H5グリッドで検出された。グリッドラインに沿った軸線を持ち2～3層には焼土・炭化物を含んでいる。形状から、後世の削平や調査前の土砂採取によって上部構造を失った平安中期（9C末葉～10C前葉）の堅穴住居跡に伴うカマドないしはカマド前庭部の下半なのではないかと推測している。（佐野）



230号  
1 濃色 [10YR4/6] 炭化物少量、土部片含む  
2 淡色 [10YR4/6] 壤土粒少分、炭化物微量  
3 褐色 [10YR4/6] 壤土粒、炭化物微量

図154 230号

### 5-5-2 310・311・573号

調査区中央部東寄りのM5グリッドで検出した3基の遺構である。出土遺物はないが、他の平安中期（9C末葉～10C前葉）の遺構群と同様、覆土の色調がグライ化していることと、互いに近接していることから3者ともこの時代の遺構と考えている。

310号と311号には重複関係はないが、両者とも最上部に焼土が位置しており、同時に隣接して所在した炉跡ではないかと考えているが、どのような機能を持つものかは解明出来なかった。3者とも後世の削平によって上部構造を失った該期の堅穴住居跡の床面に位置していたものではないかと推定している。

なお311号は、性格不明のピット573号に掘り込まれている。  
（佐野）

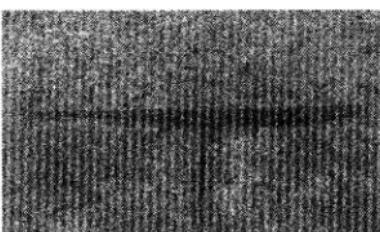


写真109 310号（南から）

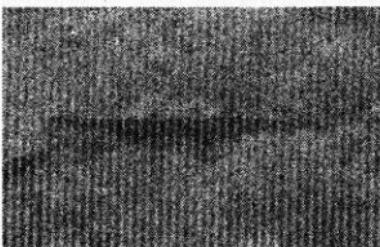
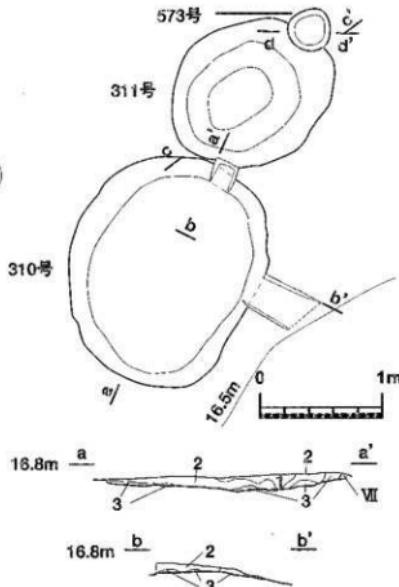


写真110 311号（南から）



- 310号  
 1 赤褐色 [5YR4/6] 焼土層。φ1~5mmの炭化物少々。長径10cmの炭化物ブロックを含む。下部に2層十多量  
 2 姫褐色 [10YR3/3] φ1~2mmの炭化物・3層十少量  
 3 黄褐色 [7.5YR4/4]

- 311号  
 1 赤褐色 [5YR4/6] 焼土層。2層十ブロック中飛、φ1~5mmの炭化物微量  
 2 姫褐色 [10YR3/3] 炭化物ブロック・4層十少量、φ1~3mmの炭化物微量  
 3 黒褐色 [10YR2/3] ラミナ状の堆積を示す。φ2mm炭化物・4層十微量  
 4 黄褐色 [7.5YR4/4]

- 573号  
 1 姫褐色 [10YR3/3] φ1~10mmの炭化物・2層十ブロック少量、しまり良  
 2 棕褐色 [7.5YR4/4] しまり良



図155 310・311・573号

## 第6章 年代不明の遺構

### 6-1 概要

年代・機能・性格、他の遺構との関係などが不明な下記の8基をここで取り扱った。位置については、P.7・9の図3・4を参照していただきたい。

225号	G3～G4グリッド	ピット	後期初頭の土器片 1点出土。
226号	A4グリッド	ピット	年代不詳の楕小縄文土器片 1点ほか出土
228号	C4グリッド	ピット	出土遺物なし
229号	G4グリッド	ピット	出土遺物なし
235号	F3グリッド	ピット	出土遺物なし
236号	E3グリッド	ピット	出土遺物なし
242号	F3～F4グリッド	ピット	出土遺物なし
417号	M6グリッド	ピット	出土遺物なし

(佐野)

## 第7章 まとめ

前章までに報告したとおり、今回の筒木坂屏風山遺跡の発掘調査では、縄文中期末葉～後期前葉、そして9C末葉～10C前葉の平安時代前半の遺構群が発見されている。また遺構群の大多数を占める縄文中期末葉～後期前葉の遺構群には、中期末葉～後期初頭（大本10式～十腰内1式以前段階）・後期初頭（十腰内1式以前段階）・後期初頭～前葉（十腰内1式以前～十腰内1式段階）の3段階のものがあることが判明した。

遺物については、縄文前期末葉の円筒下層d1式土器や中期中葉の円筒上層c式土器、最花式等中期後葉の土器がごく少量出土し、後期前葉の十腰内1式土器も少量出土しているが、主体は後期初頭を中心とする中期末葉～後期初頭の土器であった。また平安時代の土師器もわずかに出土している。

以上のことから、今回の調査区周辺については、縄文中期末葉に本格的に人々が生活・定住を始めて以後、それが後期前葉まで継続され、時間的断絶を経たあと9C末葉～10C前葉の平安時代前半に再び集落が営まれたが、それ以後は現在まで集落地としては使用されなかったという流れが追える。

以下、縄文時代を中心に話を進めたい。周囲に多く位置する縄文遺跡では発掘調査例が少ないためか、今回の調査で発見された筒木坂屏風山遺跡と同段階の遺跡はあまり見つかっていない。西側に隣接する館岡屏風山（1）遺跡には後期の遺跡が所在するとされるが詳細は不明である。また谷を隔てて南に位置する田小屋野貝塚も前期中葉～中期中葉の円筒土器文化期を主体とする遺跡・史跡であり、さらに1つ谷を隔てたところに位置する亀ヶ岡遺跡も、後期・晩期の遺跡・史跡とされているが主体は晩期であり、後期については実態が良くわかっていない。ただし近年の史跡保存管理計画策定事業に伴う散布遺物等の確認の結果、田小屋野貝塚の史跡範囲の西側隣接地より、縄文中期末葉の土器を内包する竪穴住居跡の断面が発見されている。このことから田小屋野貝塚も筒木坂屏風山遺跡に近い

西側部分には、中期末葉～後期の遺跡が包蔵されている可能性が窺えた。

ところで発掘調査時には、筒木坂屏風山遺跡周辺の縄文人は、円筒土器文化期の前期中葉～中期末葉（約5,600～4千数百年前）には、田小屋野貝塚のように「縄文海進」により現在のつがる市の平野部全体を覆っていた「古十三湖」の湖水（汽水）域に面した屏風山砂丘の東縁部に集落を営み、その後、縄文中期末葉頃～後期初頭（約4,000年前）には西側の砂丘内部に向けて移動し、約3,000年前の縄文時代晚期を迎える頃、再び亀ヶ岡遺跡が立地するような砂丘東縁部に集落を移動させるという動きをみせたのではないかと想定していた。しかし、上沢辺（1）遺跡のように屏風山砂丘中央部にも縄文晚期の遺跡は所在しており、現段階では前述した推論は否定せざるをえない。今後の発掘調査の進展により、屏風山砂丘地域の縄文人の動きを窺えるようなデータが集積することを期待したい。

筒木坂屏風山遺跡の位置する屏風山砂丘地帯は、平安時代の10C以降に堆積した厚い砂丘砂に覆われております、その下に未知の遺跡がある可能性が高い。

筒木坂屏風山遺跡も平成15（2003）年以前には未知の遺跡であったし、近年、この遺跡から6km北にあり同じ屏風山砂丘に位置する牛潟（1）

遺跡でも、10mに及ぶ砂丘砂の下から縄文中期～平安時代に及ぶ遺跡が良好な保存状態で確認されている。今回の

筒木坂屏風山遺跡の調査は、周知の遺跡以外にも過去の人々の歴史を探る上で貴重な資料となる未発見の遺跡がまだまだ眠っている可能性を教えてくれた。（佐野）

写真111  
平成17（2005）年度  
調査終了時記念写真  
(2005年9月30日)

図156 筒木坂屏風山遺跡周辺の遺跡  
(青森県教育委員会1998ほかを改変)



表35 筒木坂屏風山遺跡周辺の遺跡

No.	遺跡名	年代	種別
1.	筒木坂屏風山遺跡	縄文(中・後)・平安	集落跡
2	田小屋野貝塚	縄文(前・中)	貝塚
3	亀ヶ岡遺跡	縄文(後・晩)	集落跡
4	上沢辺(2)遺跡	縄文(後・晩)	散布地
5	上沢辺(1)遺跡	縄文(後)	散布地
6.	鉢岡屏風山(1)遺跡	縄文(前・後・晩)	散布地
7	筒木坂遺跡	縄文(前・中・後)・平安	散布地
8	船岡川(風)山(2)遺跡	縄文(後・晩)・弥生	散布地



## 引用・参考文献

- 青森県教育委員会（1998）『青森県道跡地図』
- 青森県教育厅文化財保護課（2007）『あおもりの純文道跡』—純文道跡群を世界文化遺産に・
- 青森県埋蔵文化財調査センター（1990）『岡説 ふるさと青森の歴史』都垣編
- 新谷雄藏ほか（1990）『牛潟（1）道跡』発掘調査報告書Ⅰ 車力村教育委員会
- 新谷雄藏（1995）『牛潟（1）道跡』発掘調査報告書Ⅱ 車力村教育委員会
- 新谷雄藏（1994）『下井（1）道跡』（試掘調査報告） 森山村教育委員会
- 新谷雄藏（1996）『下井（1）道跡』（本格調査） 森山村教育委員会
- 城前順一・赤澤 咲（1996）『東京大学総合研究博物館所蔵 純文時代土器・その他土器品カタログ』[増訂版] 吉澤社
- 五十嵐一治（1999）『伊勢亞倍道跡』秋田県文化財調査報告書第293号 秋田県教育委員会
- 市川金丸・鈴木克彦（1984）『龜ヶ岡石器時代道跡』青森県立郷土館
- 江坂輝輝・村越 錠（1970）『石神道跡』森山村教育委員会（ニュー・サイエンス社）
- 大高卓二（2000）『第2報 本造町丸山道跡』「東北町長者久保道跡・本造町丸山道跡」青森県立郷土館
- 小山正忠・竹原秀雄（1995）『新版 標準上色範』15版 日本色研事業株式会社
- 名西 駿（2002）『内蔵士器格査の研究・純文時代の洗骨葬一』・『釋迦土器格査の研究』刊行会
- 菊池敏夫ほか（1997）『菊石野丁跡発掘調査報告書』早稲田人文学部考古学研究室
- 上森 忍（2004）『(4) 本造町 穂木坂屏風山道跡』青森県道跡詳細分布調査報告書VVII
- 青森県埋蔵文化財調査報告書第374号 青森県教育委員会
- 佐野忠史（1997）『石神道跡』森山村道路整備・活用計画発掘調査報告書第1集 森山村教育委員会
- 佐野忠史（1998）『石神道跡2』森山村道跡整備・活用計画発掘調査報告書第2集 森山村教育委員会
- 佐野忠史（2000）『石神道跡3』森山村道跡整備・活用計画発掘調査報告書第3集 森山村教育委員会
- 佐野忠史（2001）『八重角（1）道跡』森山村緊急発掘調査報告書第7集 森山村教育委員会
- 佐野忠史（2003）『八重角（1）道跡』、『6道跡』、『8道跡』、『9道跡』森山村緊急発掘調査報告書第9集 森山村教育委員会
- 佐野忠史（2004a）『真船道跡・豊原（1）道跡』森山村緊急発掘調査報告書第12集 森山村教育委員会
- 佐野忠史（2004b）『藤山（1）道跡』森山村緊急発掘調査報告書第12集 森山村教育委員会
- 清水潤一（1959）『龜ヶ岡道跡』三山史学会（復刻版1984 名著叢書及会）
- 錦木克彦（2001）『北日本の純文後期十勝編年の研究』雄山閣出版
- 坂原秀邦（1987）『飛石遺跡』考古学ライブラリー-49 ニュー・サイエンス社
- 成田道彦（1994）『青森県の上器』『純文文化の研究6』純文上器II 雄山閣出版
- 福田友之・上森 大（1995）『木造町田小屋町貝塚』青森県立郷土館
- 水野 裕（2001）『1章4.6 屏風山砂丘』『青森県史』自然編・地学 青森県
- 村越 錠（1972）『石神（1）道跡発掘調査報告』森山村教育委員会
- 村越 錠（1974）『円鏡上器文化』考古学選書10 雄山閣出版
- 村越 錠・市川金丸・鈴木克彦（1974）『龜ヶ岡道跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第14集
- 青森県教育委員会
- 村越 錠（1983）『龜ヶ岡式土器』考古学ライブラリー-18 ニュー・サイエンス社
- 村越 錠（1984）『増補 田舎上器文化』考古学叢書10 雄山閣出版
- 山本 春（2001）『1章5.1 津軽平野』『青森県史』自然編・地学 青森県

## 報告書抄録

ふりがな	とうきさかひようぶせんいせき						
著名	青森県つがる市木坂屏風山遺跡						
開拓名	平成17~18(2005~2006)年度発掘調査報告書						
巻次							
シリーズ名	つがる山遺跡調査報告書						
シリーズ番号	2						
著者名	佐野忠史・青野紀子・羽石智治						
編集機関	つがる市教育委員会						
所在地	〒038-3138 青森県つがる市木造若緑52 ☎ 0173-49-1194(文化課)						
発行年月日	西暦2008年(平成20)3月31日						
取扱遺跡名	所 在 地	コ ナ ド 市町村	北 緯	東 緯	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因
青森県つがる市木坂屏風山遺跡 (2005年度)	青森県つがる市木造若緑51 246・247・251	02209	16040	日本測地系 40°53'16"	日本測地系 140°20'06" 世界測地系 40°53'26"	2005.6.8 ~ 9.30	1,300m <sup>2</sup> 土砂採取
青森県つがる市木坂屏風山遺跡 (2006年度)	青森県つがる市木造若緑51 246・247・251	02209	16040	日本測地系 40°53'17"	日本測地系 140°20'08" 世界測地系 40°53'27"	2006.9.6 ~ 11.30	1,200m <sup>2</sup> 土砂採取
取扱遺跡名	性 別	古 代 時 代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項		
青木坂屏風山遺跡 (2005年度)	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡(フラスコ状)・ 基礎・柱坑/ビット/階段式器	縄文土器(円筒土器、 中期後葉～後期前葉)、 石器	縄文時代中期末葉～ 後期前葉の豪華 跡を確認。		
青木坂屏風山遺跡 (2006年度)	集落跡	平安時代	灰窓				
		縄文時代	竪穴式住居跡(石造)・ 柱坑/ビット	縄文土器(中期末葉～ 後期初頭)、石器			
		平安時代	壁穴式店舗/施土遺構/ビ ット	土御壁			
要 約(発掘調査梗概)							
1. 青木坂屏風山遺跡はつがる市西部の勝羅山丘陵上に、標高約15~20mに立地している。調査域の状況は山林で、調査区域内は全体的に江戸時代以降の植林跡による擾乱を受けている。 2. 縄文時代及平安時代(9C末葉~10C前葉)の遺構・遺物が確認された。主体は縄文中期未葉~後期前葉の豪華跡である。 3. 縄文時代の遺構は、竪穴住居跡、フラスコ状土坑、配石遺構、土坑、ビット、階段式土器等が確認された。 4. 平安時代の遺構は、壁穴式店舗、施土遺構、ビットが確認された。							

## 簡木坂屏風山遺跡

### 一つがる市遺跡調査報告書 第2集一

発 行 青森県つがる市教育委員会  
 〒038-3138 青森県つがる市木造若緑52  
 ☎ 0173-49-1194(文化課) FAX 0173-49-1212

発行年月日 2008(平成20)年3月31日

印 刷 東北印刷工業株式会社  
 青森県青森市合浦1-2-12  
 ☎ 017-742-2221



Dogizakabyobuzan-site

2008

青森県つがる市教育委員会  
筒木坂屏風山遺跡